

令和7年度

シラバス集

第1学年



道灌山学園保育福祉専門学校

幼稚園教員・保育士養成科

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-7-15

電話 03-3828-8478

SYLLA BUS シラバス（授業計画）について

○シラバスとは

今年度開講する授業科目の名称、単位数、開講時期、学年、授業担当者名、授業の到達目標・テーマ、授業の概要、授業計画、使用するテキスト・参考資料、授業の形態、成績評価の方法等について、担当教員が記した授業の計画書です。

よく読んで、円滑に授業が受講できるよう心がけるようにしましょう。

※学生のしおりく便覧＞も良く読み、履修方法、課程修了認定、単位取得、出席要件などについての理解を深めておきましょう。

※シラバス集についての質問等は、道灌山学園保育福祉専門学校教務部へお願いします。

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児と健康	必修科目	講義	2単位	単独	吉村 眞由美
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「健康」に関する専門的事項				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼稚園や保育所等で指導展開される「健康」領域全般について学ぶ。子どもの生活は、急速な社会状況の変化や価値観の多様化などにより大きく変化している。子ども自らが主体的な健康習慣・安全習慣を身につけること、保育者自身がアクティブラーニングの手法を活用した保育の実践ができることを目指して授業を展開する。					
到達目標 ・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を説明できる。 ・健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。 ・乳幼児の体の発達の特徴を説明できる。 ・乳幼児の基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。 ・幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を理解している。 ・幼児期の怪我の特徴や病気の予防について説明できる。 ・危険に関しリスクとハザードの違いと安全管理を理解している。 ・子どもの健康と健康保育の役割について理解している。 ・保育における健康指導の考え方とその目的、内容、方法について習得できている。 ・保育者の健康管理のあり方と方法について理解している。					
準備学習のアドバイス 子どもの健康管理と健康教育という大きな視点と、子どもの日々の生活の実態をつぶさに観察する視点の両面を持って学習に取り組んでほしい。具体的には、オリジナル「4つの学びノート」を使用して予習ならびに授業中、授業後の学習内容の整理を行い、コツコツと学びを深めて自分のものとする姿勢を確立してほしい。					
授 業 の 概 要					
乳幼児期における課題の一つに、親や保護者によって庇護された生活から、自ら考え行動できる生活へと移行していくことが挙げられる。保育者には、子どもが他律的な健康管理から自律的な健康管理へつながる道すじを提示し、導いていくことが求められている。そのため健康領域の指導内容の理解と援助の方法を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	導入 序論・幼児期の健康と生活リズム(休養・栄養・運動)				
2	乳幼児のからだの発達				
3	乳幼児の運動能力の発達と動きの獲得				
4	安全の指導と傷害予防の実際				
5	領域「健康」のねらいと内容				
6	からだを動かす意欲づくり				
7	0－2歳児の生活と動きの獲得				
8	0－2歳児の生活習慣の獲得				
9	3－5歳児の身辺自立と生活習慣の獲得				
10	0－2歳児のあそび				
11	3－5歳児の運動あそびの実際、指導のポイント				
12	安全への配慮				
13	食育と子育て支援				
14	季節を感じる運動あそびと体験的行事・運動会				
15	総括 振り返り				
テキスト	コンパス保育内容健康(前橋明編著、建帛社)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	筆記試験点(50%)と課題点(50%)とによる。筆記試験は、子どもの健康問題、健康指導・健康管理の理論と実践方法等の認識について問う。課題点は、授業理解度、課題とレポートの内容、学習意欲等をもとに算出する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児と人間関係	必修科目	講義	2単位	単独	小藺江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「人間関係」に関する専門的事項				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 乳幼児が人と関わる力を付けていく道筋を理解し、保育者の役割について理解を深める 到達目標 ・幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。 ・人と関わる力の育ちがその後続く一人一人の人生を支える力となることを理解している ・乳児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 ・幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中で の育ちを観点として説明できる。 ・自立心の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 ・協同性の育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。 ・道徳性・規範意識の芽生えについて、発達の姿と合わせて説明できる。 ・家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。					
授 業 の 概 要					
エリクソンの精神発達課題やボウルビのアタッチメント理論について検討しながら、乳幼児が人との関わりをど のように変化させながら育っていくのか、発達の道筋を理解し、望ましい保育行為をイメージ出来るように事例 を通して学ぶ。					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 乳幼児期の記憶について思いだし取り上げ、記述する。				
2	「特別な人的環境としての保育者」人的環境でありながら、特別な意味を持つ保育者の役割を理解する。				
3	昭和期の望ましい活動としての領域、平成期の生きる力の基礎を育む領域、令和期の保育内容				
4	戦後の保育内容のとらえ方の変化について学ぶ。				
5	現在の幼稚園教育要領、保育指針の「人間関係」領域について学ぶ。				
6	幼児の精神発達における道徳性の意味、社会性の順調な育ちの結果としての道徳性の成立について学ぶ。				
7	保育者がチームで保育する事の意味について学ぶ。				
8	家庭での子育て支援が必要な現代の人間関係の特徴について学ぶ。				
9	乳児期の情動共有、情動調律をすることの意味と重要性について学ぶ				
10	乳幼児期の意図的なコミュニケーションについて学ぶ。				
11	生涯発達におけるアタッチメントの持つ意味について理解する。				
12	乳児が他者とイメージを共有することの意味について学ぶ。				
13	幼児にとってのイメージの共有と遊びの持つ意味について考える。				
14	人間関係に問題を持つ子についての理解の仕方を学ぶ。確認テスト				
15	総合まとめと確認の学習をする。 確認テストの返却				
テキスト	領域人間関係(田宮縁著、萌文書林)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教 育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	授業内確認テスト70% 授業への積極的参加30%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児と環境	必修科目	講義	2単位	単独	石河 信雅
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「環境」に関する専門的事項				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 領域「環境」について理解を深め、保育者としての資質・能力の向上に努める。 到達目標 ・幼児を取り巻く環境の諸側面(物的環境, 人的環境, 社会的環境, 安全等)と, 幼児の発達におけるそれらの重要性について説明できる。 ・幼児と環境との関わり方について, 専門的概念(能動性, 好奇心, 探究心, 有能感等)を用いて説明できる。 ・知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育(ESD)などの現代的課題と幼児期において身近な環境と関わることの意義について説明できる。 ・乳幼児期の認知的発達の特徴と道筋を説明できる。 ・乳幼児の物理的, 数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心, 理解の発達を説明できる。 ・乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心, 理解の発達を説明できる。 ・乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と, それらへの興味・関心, それらとの関わり方を説明できる。 ・乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と, それらへの興味・関心, それらとの関わり方について説明できる。 ・幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。					
授 業 の 概 要					
環境を通して、遊びの中で様々な資質・能力を獲得していくその一つに「エージェンシー(agency)」がある。保育・教育課程の立案の中で環境構成がいかに重要かを具体的な実践を通して学ぶ。そして、保育者として子ども(子供)の姿の変容を理解する「眼」を養う。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	イントロダクション・地球環境を生物多様性という視点から覗いてみる。				
2	身近な生物多様性を子ども(子供)の目線で作成してみる。(植物の栽培)				
3	身近な生物多様性を子ども(子供)の目線で作成してみる。(植物の生長探索)				
4	子ども(子供)を取り巻く環境①(ESD)				
5	子ども(子供)を取り巻く環境②(アフォーダンス)				
6	非認知能力を育む保育・教育「環境」(生命連鎖)				
7	非認知能力を育む保育・教育「環境」(砂場・遊び・探求)				
8	子ども(子供)の認知①(発達段階)				
9	子ども(子供)の認知②(模倣・表象・三項関係)				
10	環境と生活				
11	環境と遊び				
12	環境と人間関係				
13	ワーク①「理想の園庭を設計しよう」				
14	ワーク②「理想の園庭を設計しよう」(プレゼンテーション)				
15	まとめ 環境構成と保育者の役割				
テキスト	「改訂 環境構成の理論と実践」高山静子 郁洋社 2021年(第5刷)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	レポート40(%)、提出物40(%)、授業への取り組み20(%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児と言葉	必修科目	2単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目			
	(保育士養成課程)選択必修科目			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「言葉」に関する専門的事項			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
授業のテーマ 領域「言葉」の意味を十分理解し、保育における「言葉」の重要性と役割を学ぶ。 到達目標 ・人間にとっての話し言葉や書き言葉などの言葉の意義と機能について、説明できる。 ・乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 ・言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 ・言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 ・言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 ・児童文化財(絵本・物語・紙芝居等)について、基礎的な知識を身に付ける。 ・幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。				
授 業 の 概 要				
保育内容「言葉」の領域について、基礎的事項および指導上の課題について学ぶ。アクティブラーニングや実際を通して、多くの具体例から、人間にとっての言葉の重要性から、子どもの言葉の実際を学ぶ。				
授 業 計 画				
回数	授 業 内 容 等			
1	人間と言葉			
2	言葉の起源			
3	象徴としての言葉			
4	イメージと言葉			
5	言葉の伝達機能			
6	言葉の思考機能			
7	言葉の行動調整機能			
8	言葉の発達の理論			
9	各発達段階の特徴			
10	言葉の獲得を支える環境			
11	メディア、文化財との関わり			
12	3歳未満児の領域「言葉」			
13	3, 4, 5歳児の領域「言葉」			
14	言葉の指導に配慮が必要な幼児			
15	試験			
テキスト	塩美佐枝・古川寿子 編著 保育内容「言葉」乳幼児期の言葉の発達と援助 ミネルヴァ書房			
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			
学生に対する 評 価	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児と表現Ⅰ(音楽)	必修科目	講義	2単位	単独	菅野 まゆみ
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「表現」に関する専門的事項				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 『領域「表現」を理解し、幼児の豊かな表現活動を考え、学ぶ』 到達目標 ・幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 ・表現を生成する過程について理解している。 ・幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 ・様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 ・身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 ・表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 ・協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 ・様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
授 業 の 概 要					
新要領における領域「表現」のねらいと内容を理解したうえで、音楽の基礎知識を理解し高め、幼児が生活の中で表現する楽しみや豊かな創造性を育むことのできる音楽活動を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	表現とは何かを考え、領域「表現」のねらい及び内容について理解する				
2	有鍵打楽器の理解を深める				
3	音楽の基礎知識からリズムと拍を学ぶ				
4	楽譜を理解し、演奏する力を高める				
5	表現を高めるための奏法を学ぶ				
6	和音と移調を理解し、子どもの音域にあった歌唱指導				
7	日本の幼児音楽教育の歴史を学ぶ				
8	世界の音楽教育とは				
9	子どもの身体の発達を理解した音楽表現活動を考える				
10	音楽活動を用いた教材選びとその工夫と発展を考える				
11	集団遊び、伝承遊び、簡易楽器などの音楽活動を学ぶ				
12	保育に活かす音楽活動のねらいを考える				
13	楽器の紹介と使い方の注意と演奏法				
14	実践における即興的な伴奏法と効果音。学習のまとめ テスト				
15	音楽表現を活かした保育				
テキスト	ファイル(配布プリント)、こどものうた200、続こどものうた200(小林美実編著、チャイルド社)、標準「バイエル併用曲集付」				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	筆記テスト80(%)、授業内での活動20(%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児と表現Ⅱ (絵画・造形)	必修科目	講義	2単位	単独	新川 美湖
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	領域「表現」に関する専門的事項				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼児教育における造形表現活動の意義・内容・方法を理解する。また幼児の作品をもとに、造形表現における保育者の役割や支援の在り方について検討し、実践における具体的な視座を獲得する。					
到達目標 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 表現を生成する過程について理解して、幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 様々な表現を見て楽しみ、自身の感性やイメージを豊かにすることができる。 身の周りのものを五感で捉えたり、素材の特性を活かした幼児作品の価値を見い出すことができる。 幼児が表現することの楽しさを生み出す要因について、分析・理解することができる。 協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていく過程を理解できる。 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。 これからの造形表現におけるICTの活用に意欲的に取り組むことができる。					
授 業 の 概 要					
幼児教育における「表現」や「造形」の捉え方を概観しながら、幼児期における造形表現活動の意義や狙いを考察する。また、子どもの発達段階に沿った造形表現について、表出される子どもの思いや生活体験の環境の在り方と保育者の役割から検討し、具体的な造形表現活動の実践方法を習得する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	幼児期における造形表現の捉え方と活動の意義：子どもの遊びと造形表現活動における保育者の役割				
2	子どもの絵の発達段階【手の巧緻性の発達】				
3	絵に表す技法と多様な表現1【フロッターージュ等の描画材を使う表現】				
4	絵に表す技法と多様な表現2【デカルコマニー・ドリッピング等の絵の具を使う表現】				
5	自然物を使った造形制作				
6	立体に表す活動1【はさみやのりを使った立体制作と安全指導】				
7	立体に表す活動2【粘土等を使った立体制作の表現】				
8	リサイクル容器を利用した造形制作				
9	総合的な造形表現活動1：造形あそび				
10	総合的な造形表現活動2：ICTの活用と協働学習を含む造形表現活動の計画と実践				
11	「紙皿コマ」の制作と造形表現指導案				
12	行事を豊かに：造形表現活動を活かした共同的・創作的な行事の計画と実践				
13	保育指導案の作成				
14	保育指導案の発表と提出				
15	幼児の造形表現活動における現代的課題と小学校図画工作科との連携【受講ファイル提出】				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	学習への意欲や態度(40%)、各授業のレポート課題と学習記録(60%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育原理	必修科目	講義	2単位	単独	澤本 和子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ ・子どもから学び、子どもと共に育つ保育者。 ・社会や文化への前向きに関心を持つ保育者。					
到達目標 ・教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 ・子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 ・家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 ・学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 ・代表的な教育家の思想を理解している。 ・教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ・教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ・教育の制度について理解する。 ・教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ・生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
教育の原理の理解のために、まず、「学ぶ」と「教える」について認識を深めた上で、子ども観の変遷や、教育思想・教育の歴史について、保育を意識しつつ理解を深める。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	教員と学生の自己紹介・授業概要説明・課題・教育原理とは何か				
2	教育の原理①:学ぶことと教えること:教育とは何かを考える				
3	教育の原理②:学びとコミュニケーション:教育の目的を考える				
4	子どもの発達と教育①:子ども観・教育観の歴史的変遷				
5	子どもの発達と教育②:発達観・教育観の変遷と現代的課題				
6	子どもの学びと保育・教育①:幼児教育の基本的な考え方				
7	子どもの学びと保育・教育②:保育者・教師の仕事を考える				
8	子どもの学びと保育・教育③:保育・教育をめぐる今日的な課題				
9	子どもの育ちと保育・教育:多様な教育理論とその特徴				
10	生涯発達と子どもの育ち・保育者の育ち①:発達をみとることの意味				
11	生涯発達と子どもの育ち・保育者の育ち②:発達をみとる方法				
12	生涯発達と子どもの育ち・保育者の育ち③:保育者の成長				
13	教育環境の理念と整備①:教育環境設定の基本的な考え方				
14	教育環境の理念と整備② 教育環境設定の内容と方法				
15	学習のまとめ(テスト)と評価				
テキスト	現在作成中のため、電子書籍で提示します。強制はしませんが、ほとんどの授業で使います。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、学びをひらくレトリック(澤本和子著、金子書房)、授業で多くの文献を紹介する予定。プラトンから始まる教育に関わる哲学者・思想家の本をなるべく多く紹介したい。たとえば、コメニウス、ペスタロッチ、フレーベル、モンテッソーリ、デューイ、など。				
学生に対する 評 価	「子守と保育はどこが違いますか?」「親の役割とは何ですか?」など、毎回予告した課題について話し合い、ミニレポートを提出します。こうした日常学習の評価が50%。テストの得点が50%。保育者にふさわしい受講態度も評価の対象として、前者に含めます。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児教育史	必修科目	講義	2	単独	林 茂和
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程) 教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程) 保育の本質・目的の関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼児教育の必要性と、主な幼児教育思想の概要と流れを知り、人間形成における乳幼児期の教育の重要性を認識することで、保育者の資質・能力を高める。 到達目標 ・家族と社会による教育・保育の歴史を理解している。 ・近代教育・保育制度の成立と展開を理解している。 ・現代社会における教育課題・保育課題を歴史的な視点から理解している。 ・家庭や子供に関わる教育・保育の思想を理解している。 ・学校(園)や学習(活動・遊び)に関わる教育・保育の思想を理解している。 ・代表的な思想家の考え方を理解している。					
授 業 の 概 要					
・乳幼児の発達と育児の大切さ及び子供観の変化を知る ・社会の変化及び欧米と日本の代表的な教育思想・保育思想の変遷を知る ・現代幼児教育の動向とねらい及び保育者に求められる資質・能力を知る					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに 育児と子供観				
2	コメニウスの教育思想				
3	ルソーの教育思想				
4	ペスタロッチの教育思想				
5	フレーベルの教育思想				
6	モンテッソーリの教育思想				
7	現代の欧米幼児教育の動向				
8	日本の幼児教育:江戸時代の幼児教育思想				
9	日本の幼児教育:明治・大正期の幼児教育と倉橋惣三				
10	日本の幼児教育:昭和前期の幼保一元化と保育所				
11	日本の幼児教育:戦後の幼児教育の政策と運動				
12	社会の変化と幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂				
13	幼稚園教育要領の改訂とねらい 指導領域と指導の形態 テスト				
14	幼稚園施設整備指針 環境の整備				
15	まとめ 乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト				
テキスト	「幼児教育史(六訂版)」林 茂和 編著 富士ビジネス・サービス株式会社 平成31年度出版 当年度印刷実費等で道灌山学園保育福祉専門学校が頒布				
参 考 書 参考資料等	・『子ども子育て白書』 内閣府 ・『近代幼児教育史』 岩崎次男 編 明治図書 ・『西洋近代幼児教育思想史』 乙訓稔 著 東信堂 ・『日本の幼児教育思想と倉橋惣三』 諏訪義英 著 新読書社 ・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』 文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 ・『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼稚園施設整備指針』 文部科学省 ・『発達診断学』 ゲゼル 著 日本小児医事出版社 ・『幼児のコトバ』 平井昌夫 著 日本文化科学社 ・『中央教育審議会答申』・『社会保障審議会児童部会保育専門委員会答申』 ・『乳幼児期からの子供の教育支援プロジェクト』 東京都教育委員会				
学生に対する 評 価	・講義時の発問に対する回答内容による意欲・知識・理解の程度やノーティングでの講義内容の整理した記述の程度(10%) ・レポートの記述内容と論理性及び文章力(45%) ・テストの成績(45%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教職概論(幼) 保育者論(保)	必修科目	講義	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的の関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 教職・保育職を目指す者として、必要な法令、制度、社会規範・倫理等の概要を知り、教職・保育職の役割を理解し、その使命感と自覚を高め、専門性のある信頼される保育者となる重要性を認識させる。また、チーム学校・保育に関わる連携・協働や資質向上とキャリア形成について理解させる。					
到達目標 ・公教育や保育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ・進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員・保育士に求められる役割を理解している。 ・今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ・幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校(園)務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ・教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ・教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解している。 ・校(園)内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。 ・保育者の役割と倫理について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけを理解する。 ・保育士の専門性について考察し、理解する。 ・保育者の連携・協働について理解する。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。					
授 業 の 概 要					
・教職・保育職の意義及び教員の役割を知り、その特質を理解する。 ・教員・保育士の職務内容、服務、研修等について知り、職業人となる心構えを培う。 ・教育・保育課題等を理解し、求められる基本的な資質や能力を自ら高める姿勢を育てる					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに 教職観・保育者観の変遷と身分保障等				
2	教職・保育職の意義と専門職として身に付けること				
3	教員・保育士の役割と教育職・保育職としての社会的立場と法令				
4	求められる教員・保育士の資質能力と望まれる教師像・保育士像				
5	服務規律と分限・懲戒				
6	勤務と職務内容及びチーム学校・保育に関わる連携・協働				
7	今日的教育課題・保育課題				
8	教育・保育目標と教育課程・保育の計画				
9	幼稚園教育要領・保育所保育指針と指導計画・評価				
10	教員に求められる4つの力 ー学習指導(保育)力ー				
11	教員に求められる4つの力 ー生活指導力・進路指導(小学校との繋がり)力ー				
12	教員に求められる4つの力 ー外部との連携・折衝力ー				
13	教員に求められる4つの力 ー学校経営力・組織経営力(チーム学校)ー				
14	専門性の向上と職務としての研修 ー資質向上とキャリア形成ー テスト				
15	まとめ 幼稚園・保育園の一日 進路・就職と採用試験について等				
テキスト	『教職概論・保育者論(九訂版)』 森藤 才著 道灌山学園保育福祉専門学校印刷・頒布				
参 考 書 参考資料等	・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』 文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 ・『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館				
学生に対する 評 価	・講義時の発問に対する回答内容による意欲・知識・理解の程度(10%) ・レポートの記述内容と論理性及び文章力(40%) ・テストの成績(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育社会学(幼) 教育と福祉(保)	必修科目	講義	2単位	単独	宮島 直丈
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 我が国及び諸外国の教育事象を、教育社会学の知見で読み解き理解することを通して、近代以降の我が国教育システムの課題と問題点、教育事象の社会的構成構造を明らかにする。					
到達目標 ・学校(園)を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 ・子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 ・近年の教育政策の動向を理解している。 ・諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。 ・地域と連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 ・地域との連携を基とする開かれた学校(園)づくりが進められてきた経緯を理解している。 ・学校(園)の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校(園)安全の必要性について理解している。 ・生活安全、交通安全、災害安全の各領域や我が国の学校(園)をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理および安全教育の両面から具体的な取組を理解している。					
授 業 の 概 要					
「社会学的想像力」(C.W.ミルズ)を用いて、教育の世界を読み解きながら、教員として必要な相対的、総合的思考を涵養する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	講義ガイダンス「教育社会学」概説 講義根拠科学としての「教育社会学」概説				
2	教育とgender ヒトから人へ 文化と社会化 「嫡出の推定」 なぜ「女子大」あるのか？				
3	少子化社会の家族と教育 家族の形成 近親婚の禁忌 「民法」に見る家族				
4	地域社会と教育事象 我が国地域社会の変化と地域の教育力 地域社会の組織としての「学校」				
5	「教育病理」の諸相 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」				
6	「児童虐待」の教育社会学 ①児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
7	「児童虐待」の教育社会学 ②児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
8	「児童虐待」の教育社会学 ③まとめ 「児童虐待」は本当に増加しているのか？				
9	「いじめ」の教育社会学① 「いじめ」の現場 「いじめ」の構造				
10	「いじめ」の教育社会学② 「いじめ」の社会的背景 「いじめ」への取り組み				
11	「入試・選抜」の教育社会学① 「学歴社会」は果たして本当に存在するのか？ 「学歴」とは何か				
12	「入試・選抜」の教育社会学② 「努力の階層性・不平等問題」学歴とメリトクラシー				
13	国際社会の中の我が国教員 「国際教員指導環境調査」(TALIS)				
14	我が国の教育政策 「教育改革」はなぜ失敗するのか？ 国家、政策と教育事象				
15	授業まとめー「教育社会学」を学んでー 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。「PowerPoint集成」 板書等中心。				
参 考 書 参考資料等	随時印刷物等の資料を配布する。 オフィスアワー(13:00～17:00) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	定期試験(70%)、出欠席状況(30%)にて評価する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育心理学	必修科目	講義	2単位	単独	金子 楓
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ ・幼児、児童及び生徒の心身の発達、学習の過程に関する基礎的知識を身に付ける。 ・各発達段階について学び、学習活動を支える指導の基礎となる考え方を身に付ける。					
到達目標 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。					
授 業 の 概 要					
学習の概念、学習の過程に関する基礎的な知識を学ぶ。動機づけや主体性形成、幼児期の発達について学び、保育実践に重要な知識を身に付ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	教育心理学入門				
2	学習のしくみ				
3	記憶と動機づけ				
4	発達段階と発達課題				
5	乳幼児期の発達と愛着形成				
6	ことば・遊びの発達				
7	道徳性・向社会的行動の発達				
8	知能とパーソナリティ				
9	感情の発達と欲求				
10	ストレスとストレスマネジメント				
11	特別な支援を要する子ども—発達障害				
12	特別な支援を要する子ども—こころの問題				
13	発達の課題に応じた援助と協働				
14	現代社会と子育て支援				
15	まとめ・試験				
テキスト	毎回プリントを配布				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	授業態度14%、小レポート16%、筆記試験70%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
発達心理学Ⅰ(幼) 保育の心理学(保)	必修科目	講義	2単位	単独	野原 将英
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。					
到達目標 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
授 業 の 概 要					
心身の発達過程について基礎的な知識を習得し、発達の特徴を踏まえた視点から子どもへの理解を深める。乳幼児期から青年期の身体・運動、知覚、情緒、認知、社会性などの発達について学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	発達とは - 遺伝と環境、生涯発達-				
2	発達の原理 - 分化と統合 -				
3	身体・運動機能の発達 - 神経系の発達、原始反射と随意的な活動 -				
4	知覚の発達 - 視覚・聴覚の発達 -				
5	情緒の発達 - 感情の発生と発達 -				
6	愛着と親子関係 - 愛着の形成と親との関わり -				
7	認知の発達 - 思考の発達、ピアジェの認知発達理論 -				
8	ことばの発達 - コミュニケーションの発達、内言と外言 -				
9	知的機能の発達 - 記憶の発達、学習と動機づけ -				
10	発達障害の理解と支援 - 知的能力障害、LD、ADHD、ASD -				
11	社会性の発達 - 心の理論、道徳性の発達 -				
12	自我の発達 - 自律と自己概念 -				
13	遊びの発達 - 遊びの理論と特性 -				
14	児童期～青年期の発達 - 社会的かかわりとアイデンティティ -				
15	定期試験、乳幼児期から青年期における心身の発達についてのまとめ				
テキスト	なし				
参 考 書 参考資料等	『ベーシック発達心理学(開一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会)』、『図でわかる発達心理学(新井邦二郎編著 福村出版)』、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	定期試験(80%)、授業中の態度(20%)により評価する				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子ども家庭支援の心理学	必修科目	講義	2単位	単独	合澤 典子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 人の生涯発達について理解した上で、家庭のもつ意味と現状、そしてさまざまな問題を抱える子どもや過程の理解とその支援につながる力を身につける。					
到達目標 ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
生涯発達や子どもを囲む家族や家庭の意義と機能を概説した後、子育て家庭の現状とその課題や、子どもの心身の健康に関する支援を考え、理解を深めていく。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	生涯発達(1)乳幼児期から学童期前期				
2	生涯発達(2)学童期後期から青年期				
3	生涯発達(3)成人期・老年期				
4	家族・家庭の理解(1)家族・家庭の意義				
5	家族・家庭の理解(2)親子関係・家庭関係の理解				
6	家族・家庭の理解(3)子育ての経験				
7	家族・家庭の理解(4)親としての育ち				
8	子育て家庭に関する現状と課題(1)子育てを取り巻く社会的状況				
9	子育て家庭に関する現状と課題(2)ライフコースと仕事・子育て				
10	子育て家庭に関する現状と課題(3)多様な家庭				
11	子育て家庭に関する現状と課題(4)発達障害				
12	子育て家庭に関する現状と課題(5)児童虐待				
13	子どもの精神保健(1)子どもの生活・生育環境とその影響				
14	子どもの精神保健(2)心の健康				
15	まとめ 試験				
テキスト	指定しない、ただし毎回資料を配付する				
参考資料	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 相良順子・小泉左江子編(2020)「子ども家庭支援の心理学」ナカニシヤ出版				
学生に対する 評 価	平常点(20%)、リアクションペーパー・課題(30%)、試験(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育課程総論・保育の計画と評価	必修科目	演習	2	単独	林 茂和
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程) 教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程) 保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼稚園教育のための教育課程・保育所保育のための全体的な計画の編成と指導計画の作成の基本的な考え方を理解し、作成手順を学ぶことを目的とする。乳幼児の発達に対応した保育の計画と評価の具体的な事例に接し、保育内容の充実と向上を目指す専門職として、一人一人の子どもにあった保育を創り上げる姿勢を涵養する。					
到達目標 ・学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 ・学習指導要領・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 ・教育課程・全体的な計画が社会において果たしている役割や機能を例示できる。 ・教育課程や全体的な計画の編成の基本原則を理解している。 ・教科・領域を横断して教育内容を選択・配列された教育課程・全体的な計画やその考え方を例示することができる。 ・単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野や乳幼児、児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程・全体的な計画や指導計画を検討することの重要性を理解している。 ・学習指導要領等に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 ・カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。 ・保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 ・全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育の課程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。					
授 業 の 概 要					
・発達に則した教育課程・全体的な計画の編成と指導計画の基礎を学び理解する。 ・内容の充実を図った教育課程・全体的な計画の編成と計画を作成し、自己評価、再編成する。 ・計画、実践、省察・評価、改善のサイクルについて理解し、改善の姿勢をもつ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに; 幼稚園教育要領と教育課程及び保育所保育指針と全体的な計画の目的 DVD「子どもの最善の利益」「最もふさわしい生活の場」視聴				
2	指導計画と評価の基礎理論・知識 DVD「養護と教育の一体性」視聴				
3	保育内容と領域の理解と教育課程・全体的な計画の編成・作成				
4	発達の理解と教育課程・全体的な計画の編成・作成と指導計画 DVD「発達と生活の連続性」視聴				
5	乳幼児期の遊びと学び、3歳児未満児の発達、障害への対応(自立活動)と個別指導計画				
6	計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上				
7	保育所以外の児童福祉施設における計画と評価の意義				
8	特色ある教育活動、家庭・地域との連携、子育て支援、預かり保育、小学校との連携 等				
9	幼稚園・保育所の設立理念・教育目標・特色ある保育と環境(講義・ミニ演習・発表)				
10	教育課程・全体的な計画の編成・作成と展開(講義・ミニ演習・発表)				
11	教育課程・全体的な計画に基づいた指導計画(長期)の作成と留意事項(講義・ミニ演習・発表)				
12	指導計画(短期)の作成と展開、保育の省察・記録と自己評価から指導計画の再編成及びカリキュラムマネジメント(講義・ミニ演習・発表)				
13	環境の設定と施設整備指針及び指導計画と保育技術 DVD「環境を通して行う保育」視聴,テスト				
14	幼稚園幼児指導要録と生活と発達の連続性を踏まえた保育所児童保育要録				
15	まとめ:求められる保育の専門性 DVD「保育所の社会的役割と責任」視聴				
テキスト	『教育課程総論・保育の計画と評価(九訂版)』林 茂和 編著 富士ビジネス・サービス株式会社 令和6年度出版 当年度印刷実費等で道灌山学園保育福祉専門学校が頒布				
参 考 書 参考資料等	・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼稚園幼児指導要録』文部科学省 ・『保育所児童保育要録』厚生労働省 ・『教育課程総論』小田 豊・神長 美津子 編著 北大路書房 ・『教育課程・保育課程を学ぶ』松村 和子・近藤 幹生・梶島 香代 著 みなみ書房 ・『保育と児童家庭福祉』櫻井 奈津子 編著 株式会社みらい				
学生に対する 評 価	・講義時の発問に対する回答内容や演習時の意欲・知識・理解の程度(5%) ・ノートでの講義内容の整理や演習時の発表の能力(5%) ・演習時のまとめの記述内容と論理性、文章力及び表現力(45%) ・テストの成績(45%)				

シラバス

授 業 科 目 名		教員の免許状取得のための	授業内容	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育方法技術論(幼) 保育内容の理解と方法Ⅰ(保) ※保育技術論及び保育研究を含む		必修科目	演習	2単位	単独 複数 オムニバス	菅野 清子 田中 岳 阿部 恵
施行規則に定める 科目区分		(教員養成課程)道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目				
		(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)		教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標						
授業のテーマ						
・保育の中で子どもたちと楽しく関われる遊びや文化財。これからも受け継ぎたい遊びや文化財、新しく生まれてきている遊びや文化財を実践的に学ぶ。						
到達目標						
・教育方法の基礎的理論と実践を理解している。						
・これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。						
・学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。						
・学習評価の基礎的な考え方を理解している。						
・基礎的な指導理論を踏まえて、目標・内容、教材、保育展開、保育形態、評価規準等の視点を含めた指導案を作成することができる。						
・子供たちの興味・関心を高めるために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。						
・子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。						
・子供の心身の発達や子供を取り巻く環境等と幼稚園教育要領・保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子供の生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。						
・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。						
日本の誇れる児童文化財を、実際の保育の中で活用できるように、教師や学生の多くの事例を見て学び習得する。また、できるだけ多くの教材を、個人の財産として長く保育の中で活用できるように制作し、活かす方法を学ぶ。						
授 業 計 画						
回数	授 業 内 容 等					
1	1 到達目標の確認 保育の技術と領域・内容(身体・音楽・造形・言語・表現・文化などと関連)					
2	子どもと遊び 遊びの意義 発達と遊び 保育の中での遊び 遊びの現状					
3	2 手遊び・歌遊びで考える児童文化(コミュニケーション リズム 身体表現等)					
4	絵本は「どこでもドア」 絵本とは 保育に2種類の絵本とその特色 読み聞かせの実際					
5	絵本の読み聞かせ(声・ジェスチャー・人物の使い分け・子どもの配置) ※学生読み聞かせ ①					
6	世界に誇れる保育絵本 保育絵本の歴史 保育絵本の実際 ※学生読み聞かせ ②					
7	3 道灌山学園の児童文化教材 絵カードとは 特色					
8	絵カードの作品制作 (絵カード遊びの実際・下絵・歌あそび・選択肢のある遊びの意義)①					
9	絵カードの作品制作 (絵カード制作の技術・着色・縁どりの技術・すきま時間の活用法)②					
10	絵カードの実践 実習等での活かし方 指導計画の検討					
11	4 日本で花開いたパネルシアター パネルシアターとは 特色 パネルシアターの実際					
12	パネルシアターの作品制作 材料・作り方(下絵の制作・仕掛けの技法)①					
13	パネルシアターの作品制作 材料・作り方(着色方法・舞台の効果・切り取りの工夫等)②					
14	パネルシアターの作品制作 材料・作り方・演じ方・指導案の検討 ※学生実演①					
15	パネルシアターの演じ方 (展開・人物の使分け・お話とコミュニケーション)※学生実演②					
16	5 前期まとめ 児童文化運動や児童文化施設 保育技術研究会の振り返り					
17	6 素話(ストーリーテリング)は心の栄養 素話とは 素話の特色 語りの実際					
18	素話の語り方と基本 語り方(子どもの配置 語り手の態度 など) ※学生素話実演					
19	7 現在でも子どもに大人気の紙芝居 紙芝居とは 紙芝居の特色 紙芝居の実際					
20	演じ方①(舞台の必要性・集団理解の意味・絵本との違い) ※学生実演					
21	8 絵人形が大活躍の子どもと楽しむ簡易ペープサート くるくるペープサートの制作と実演					
22	ペープサートの種類 簡易ペープサートの作り方 巻き込みペープサートの製作と実演					
23	ペープサートの制作と舞台活用の理解(オリジナル作品の創作) ※グループワーク①					
24	ペープサートの制作(オリジナル作品の創作 指導案の作成) ※グループワーク②					
25	9 伝承遊びの楽しみ 伝承遊びのいろいろ 保育に生かす伝承遊び 伝承遊びの意義					
26	身近な伝承遊び(手遊び 絵かき歌 お手玉遊び など)を楽しみながら伝承を伝える					
27	11 ごっこ遊びと劇遊び 劇遊びとは 劇遊びの特色 保育の展開					
28	ごっこ遊びと劇遊び 構成と道具 演じ方の実際(人物の使い分け) ※学生劇ごっこ実演					
29	ごっこ遊びと劇遊び 劇あそびの演じ方 空間の活用と展開 ※学生劇ごっこ実演					
30	12 後期まとめと、伝承したい文化と新たに創造される文化					
テキスト		「すきま時間あそび」阿部恵著(すずき出版)				
参 考 書 参 考 資 料 等		幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)「いつでもそばに 保育絵本の楽しみ」阿部恵著(フレーベル館)				
学生に対する 評 価		提出物(50%)、授業内レポート(30%)、授業態度及び授業内発表等(20%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育・保育実習指導Ⅰ	必修科目	演習	2単位	オムニバス	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育実践に関する科目				
	(保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育実習				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 一連の実習における意義を理解し、実習での教育・保育理解を深めるための態度・知識・技術などの習得を目指す。 到達目標 ・教育・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・幼稚園・保育所の役割、機能、日々の保育の流れを理解する。 ・意欲的かつ積極的に事前準備を行うことができる。 ・子どものかかわりを通して子どもに対する理解を深め、適切な関わりについて学ぶ。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。					
授 業 の 概 要					
実習の意義と目的を理解し、その学びより自分の実習の目的を明確にする。 実際の保育に即した実習日誌の書き方を学び、確実に身に着ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について (池田幸代)				
2	実習の意義と目的、実習スケジュールについて (池田幸代)				
3	保育園の一日の流れ (池田幸代)				
4	実習記録の取り方①記録の意義 (池田幸代)				
5	実習記録の取り方②一日の流れ (池田幸代)				
6	実習記録の取り方③子ども理解と保育者に対する気づき (池田幸代)				
7	保育所実習の準備①基本的なマナーと実習の種類 (池田幸代)				
8	保育所実習の準備②園の種類と実習園の選択 (池田幸代)				
9	保育所実習の準備③書類の書き方 (池田幸代)				
10	保育所実習の準備④オリエンテーションについて (池田幸代)				
11	発達の違いと子どもとの関わり方 (池田幸代)				
12	指導案の作成(絵本の読み聞かせ) (池田幸代)				
13	模擬保育(絵本の読み聞かせ) (池田幸代)				
14	指導案の作成(制作物・ルールのある遊び) (池田幸代)				
15	模擬保育(制作物・ルールのある遊び) (池田幸代)				
16	幼稚園実習について (石河信雅)				
17	部分実習指導案(0～2歳と玩具) (石河信雅)				
18	部分実習指導案(3～5歳と玩具) (石河信雅)				
19	部分実習指導案(製作)模擬保育 (石河信雅)				
20	子ども(子供)の人権と実習生として守るべきこと (石河信雅)				
21	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について (石河信雅)				
22	非認知能力について (石河信雅)				
23	エピソード記録について (石河信雅)				
24	絵本について (石河信雅)				
25	ストーリーテリング・素話1 (石河信雅)				
26	ストーリーテリング・素話2・発表会 (石河信雅)				
27	遊びからの学び (石河信雅)				
28	支援を要する子ども(子供)の理解 (石河信雅)				
29	保育者としての専門性 (石河信雅)				
30	まとめとしての実習への心得 (石河信雅)				
テキスト	『成長し続ける教育・保育実習』 教育情報出版				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物(30%)、授業内課題(50%)、模擬保育(20%)による総合評価				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
学校体験活動	必修科目	2単位	実習	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める各科目区分又は事項等	(教員養成課程)教育実践に関する科目			
	(保育士養成課程)大学が独自に設定する科目			
各科目に含めることが必要な事項等 (教員養成課程)	学校体験活動			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 ・幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ・指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実即して記録することができる。 ・教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ・学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ・幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ・保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 ・学級担任の役割と職務内容を实地に即して理解している。 ・様々な活動の場面で適切に幼児と関わる事ができる。				
学 校 体 験 活 動 実 施 計 画				
学校体験活動の内容及び成績評価等				
①学校体験活動の時期 幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部1年次 5月下旬～12月下旬				
②学校体験活動の実習期間・総時間数 幼稚園 2週間(90時間)				
③学校体験活動実施園の確保・方法 養成校の同一学校法人下の幼稚園の中から、学校が指定する実習園を選び内諾を得る。				
④学校体験活動内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習；幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習；実習園学級担任と幼児の活動に参加し、学級担任の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習；実習生が部分実習指導計画案を立案し学級担任から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 園長・主任教員等より、幼稚園の運営方針や教育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。 幼児降園後の教職員の職務内容を理解する。				
⑤学生に対する指導の方法 指導教員が学校体験活動実施園と連絡を取りながら連携を図り、体験活動参加状況の確認を行うと共に、学生への指導を積み重ねていく。学校体験活動期間中、学生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥学校体験活動の成績評価(評価の基準及び方法) 実習生から指導教員へ提出された学校体験活動記録簿を基に、実習運営委員会において成績評価を行う。				
テキスト	特になし			
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 『成長し続ける教育・保育実習』 教育情報出版 『3つのかべを乗り越える！保育実習リアルガイド』学研教育みらい			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子ども家庭福祉	必修科目	講義	2単位	単独	田尻 さやか
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 子どもが健やかに育つためには、子どもの基本的人権がまもられることが必要である。現代の子どもが育つ社会は、少子化・家族規模の縮小化、格差社会など大きな変化の波の中で、社会的支援の問題や児童虐待など生きる権利を脅かす様々な「危険」と隣り合わせである。この授業では、子どもが安全に安心して暮らし、健康で豊かに暮らす環境づくりの支援について社会の仕組みや施策を理解し、自ら社会の問題に目を向け、問題意識を持ち、考える力をつける。					
到達目標 ・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護について理解する。 ・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 ・子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
授 業 の 概 要					
家族を取り巻く社会環境の変化がもたらす子どもの育ちへの影響が指摘され、子育てを社会全体が支えていくことの必要性が認識されるようになった。これに伴い、子どもの育ちを支える専門家である保育士にはより高い専門性が求められている。子どもの最善の利益をまもる視点から子どもへの直接的なかかわりだけでなく、子育て中の家庭が抱える課題、さらに地域社会の抱える問題について目を向け、私たちにできる支援とは何か、社会の中で求められる保育士へのニーズについて考える。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子どもと家庭を取り巻く現状(子どもと家庭の状況、人口構造の変化、未婚化・晩婚化の進行、養育の状況、家族・社会・地域の変容)				
2	子どもの権利(歴史、日本の子どもの権利保障、子どもの権利をまもる取り組み)				
3	子ども家庭福祉の歴史(諸外国の子ども家庭福祉、日本の子ども家庭福祉)				
4	子ども家庭福祉の法制(児童福祉法、子ども家庭福祉に関係する法律)				
5	子ども家庭福祉の体系(子ども家庭福祉の行財政、実施機関と施設)				
6	子育て支援サービスと子どもの健全育成(少子化対策の必要性、子育て支援施策の変遷)				
7	母子保健サービス(母子保健の理念、母子保健サービスの実施と体系、母子保健の取り組み)				
8	保育サービスについて(保育所と待機児童、保育サービス、保育所保育指針)				
9	子ども虐待とDV(ドメスティック・バイオレンス)				
10	社会的養護について(社会的養護とは、社会的養護の現状と今後)				
11	ひとり親家庭への福祉(ひとり親家庭の現状と生活状況、ひとり親家庭への福祉サービスの概要)				
12	障がいのある子どもの福祉(障がい児の定義と現状、障がい児とその家庭への福祉施策)				
13	情緒障がい・少年非行問題について(子どもの貧困、子どもをまもる、命をまもる)				
14	子ども家庭福祉の専門職と諸機関との連携(児童福祉に携わる専門職、子ども家庭福祉の専門性、関係機関との連携)				
15	まとめと試験				
テキスト	「児童の福祉を支える 子ども家庭福祉」 吉田真理 萌文書林 2018				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	試験(60%)、授業への取り組み態度(10%)、提出物・コメントペーパー等提出物(30%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	講義方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育原理	必修科目	講義	2単位	単独	野尻 裕子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
【授業のテーマ】 本授業では、保育に関する基本的な事項について理解できるよう保育所保育指針に基づいて学んでいく。特に乳幼児期の保育を支える制度や保育の役割、重要性についての理解を深め、保育者としての基礎的・基本的な知識を修得する。 【到達目標】 ・保育の意義及び目的について理解する。 ・保育に関する法令及び制度を理解する。 ・保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ・保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ・保育の現状と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
保育を学ぶための基礎・基本的な事項(理念、役割、制度等)について、保育所保育指針を中心に学習を進める。またその中で、「遊びを中心とした生活の中で、環境を通して行なう保育」とは何かについて、具体的な子どもの姿を提示しながら理解を深めていく。更に国内外の保育の思想や歴史について学ぶとともに、我が国における保育の現状や課題についても触れていく。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育の理念と概念				
2	保育の社会的役割と責任				
3	子ども・子育て支援新制度と関係法令				
4	保育の実施体系				
5	保育所保育指針に基づく保育				
6	保育の目標と方法				
7	乳児の保育				
8	1歳以上3歳未満児の保育				
9	3歳以上児の保育				
10	子ども理解の視点と方法				
11	保育の計画				
12	保育の思想と歴史(諸外国) ※1-①				
13	保育の思想と歴史(日本) ※1-②				
14	保育の基本について考える(試験及び解説) ※2				
15	まとめ: 保育の現状と課題(日本を中心に)				
テキスト	適宜、授業内で資料を配布する。				
参 考 書 参考資料等	厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年				
学生に対する 評 価	※1: 小テスト2回(10%)、※2: 期末試験(60%)、※3: (毎時間終了時に提出)リアクションペーパー(30%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子どもの保健	必修科目	講義	2単位	単独	細谷 光子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程) 保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 子どもの発育や発達、子どもの心身の健康状態を把握する方法を学び、保育者として子どもを健康に保育するために必要な基礎知識を学ぶ。					
到達目標 ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ・子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達について理解する。 ・子どもの疾病とその予防法及び適切な対応について理解する。 ・子どもの心身の健康状態とその把握について理解する。					
授 業 の 概 要					
子どもの体を理解するための基礎知識、乳幼児期の成長発達、子どもに多い感染症等について、関連するガイドラインをもとに講義する。また、保育者として、健康観察の重要性について、身体的・精神的・社会的な観点から解説し、適切な対応、支援について講義する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子どものこころとからだの健康と保健の意義(1) :子どもの保健の対象、施策、保健統計、課題				
2	子どものこころとからだの健康と保健の意義(2) :母子保健 乳幼児健康診査				
3	子どもの成長と発達(1) :人体構成要素 脳の発達 スキャモンの発育曲線 臨界期				
4	子どもの成長と発達(2) :乳幼児身体発育曲線 体型の変化 運動機能 ことば 情動・社会性				
5	生理機能の発達(1) :バイタルサイン 菌と消化・吸収 排泄 水分代謝				
6	生理機能の発達(2) :免疫 感覚器官 皮膚				
7	子どもの生活と保健:子どもの基本的な生活習慣				
8	子どものこころとからだの健康状態を知る :健康及び発育・発達の把握の意義 健康診断				
9	子どもによくみられる症状(1) :症状と対応(不機嫌 発熱 咳・鼻水 痛み(頭痛・腹痛))				
10	子どもによくみられる症状(2) :症状と対応(嘔吐 下痢 便秘 けいれん 脱水)				
11	感染症を予防する :感染症の3要因 感染経路 予防接種				
12	感染症 :子どもにみられる感染症				
13	子どもの主な病気(1) :先天性の疾患 アレルギー疾患				
14	子どもの主な病気(2) :血液・内臓の疾患 神経・精神疾患				
15	子どもの主な病気(3) :その他の疾患 まとめ 筆記試験				
テキスト	イラスト 子どもの保健・健康と安全 東京教学社				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示 文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示 厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (2017.3告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	筆記試験(70%) 課題(提出期限含む)及び小テスト(20%) 授業への取り組み姿勢(授業態度、学習意欲)(10%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子どもの健康と安全	必修科目	演習	1単位	単独	細谷 光子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 保育者として、子どもの健康を守り高めるために必要な知識と技術を習得する。					
到達目標 ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ・保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。 ・関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する。 ・子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 ・子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組や保健活動計画及び評価等について具体的に理解する。					
授業の概要					
保育者に求められる、保健的観点を踏まえた知識や養護技術、ケガや疾病、感染症などへの適切な対応、事故や災害等における安全管理能力など、健康と安全支援について、演習・実習を取り入れて講義する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子どもの事故についてー子どもの事故の特徴 保育施設での事故 事故防止と安全対策				
2	災害への備えについてー災害への備え、避難訓練、災害時の対応、こころのケアなど				
3	子どもの保健的対応(1)ー3歳未満時の特徴やその対応(飲食、乳歯と永久歯、睡眠など)				
4	子どもの保健的対応(2)ー清潔及び排泄への援助技術の習得(おむつ替え・沐浴の演習)				
5	アレルギーのある子どもへの対応ーアレルギー疾患の種類と対応、アナフィラキシーへの対応など				
6	子どもの救急処置ー心肺蘇生法、AED操作、気道異物除去、エピペンなど				
7	子どもの応急処置ー頭部打撲、出血、骨折、歯や目のけが、誤飲と誤嚥、三角巾の使い方など				
8	子どもの体調不良への対応ー発熱、下痢、咳、嘔吐、脱水、けいれん、熱中症など				
9	子どもの感染症とその予防(1)ー発生時の対応、登園停止と解除など				
10	子どもの感染症とその予防(2)ー感染源・感染経路対策、消毒、清掃などの衛生管理				
11	慢性疾患のある子どもへの対応ーてんかん、糖尿病、先天性心疾患、小児がんなど				
12	障害のある子どもへの対応ー発達障害、神経症、不安症、聴覚障害、視覚障害など				
13	健康教育についてー子ども及び保護者への健康教育、保健だよりなど				
14	保健安全管理の実施体制ー保健活動、保健計画と評価、地域や保護者との連携				
15	学習のまとめ 筆記試験				
テキスト	よくわかる！保育士エクササイズ7 『子どもの保健と安全 演習ブック』 ミネルヴァ書房				
参 考 書 参考資料等	「2019年改訂版 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成31年4月 厚生労働省) 「2018改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(令和5年5月一部改訂 こども家庭 庁) 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時 の対応のためのガイドライン」 (平成23年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省) な ど				
学生に対する 評 価	筆記試験(50%)、課題と実技評価(40%)、授業への取り組み姿勢(授業態度・学習意欲)(10%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育内容の理解と方法Ⅲ (音楽)※発表会、歌検を含む	必修科目	演習	4単位	クラス分け・ 単独	(五十音順) 笠原亮子、菅野まゆみ 高橋由紀子、高橋洋子 田口千恵、深谷佳代子 星川美生、松姫俊彦 中村麻里子、渡部さやか
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 教育者として必要とされる音楽の基礎知識を身に付ける。 歌、言葉、遊び、動き、リズム等を活用した音楽にかかわる表現を習得する。 幼稚園、保育園の現場で求められるピアノ伴奏、表現の基礎を習得する。 楽器の音色に気づき表現できるようにする。 ピアノ、歌唱の表現法を身につける。わらべうたの音階。 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域(表現)のねらいを明確に理解する。 共通教材・選択教材の歌、伴奏、弾き歌いができる。 ピアノや各楽器を通して音楽を多角的に捉え、臨機応変に使うことができる。 色々な音色のハーモニーの美しさに気づき、感動、達成感、充実感を、合奏を通して体験する。 到達目標 ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。					
授 業 の 概 要					
感性、思考、イメージを経験し、感性、表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。 素材や方法を工夫し、活用出来るよう指導。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 担当教員の紹介 授業内容と方法				
2	基礎知識の理解 基礎理論「打鍵、読譜、音符」 保育で生かす為のピアノ技術の基本個人指導				
3	歌う表現知識 音域、発声 ピアノ実技個人指導				
4	「音楽、言葉、遊び」歌を歌う楽しさを味わう 子どものうたとメロディー ピアノ実技個人指導 ハ長調の音階				
5	「音楽と動き」 音符表現(スキップ) コード、和音				
6	言葉とリズム 乳幼児、幼児の生活の中での歌 わらべうた 昔から伝えられてきたわらべ歌の伴奏法(型)				
7	身体表現 みたもの美しいものをイメージづくり 子どもの歌の伴奏法				
8	生活の中での歌 あいさつ、おべんとう、おかえり、行事 ピアノ実技個人指導 ト長調の音階				
9	生活の中での歌 あいさつ、おべんとう、おかえり、行事 ピアノ実技個人指導 二長調の音階				
10	表現の喜び、自分なりの表現 拍、マーチ				
11	「音楽と動き」の表現実践 フレーズ、イメージづくり、言葉 動作				
12	強弱を用いた音楽表現を学ぶ				
13	前期音楽表現 弾き歌い実演発表				
14	前期まとめ 課題曲の仕上げ				
15	保育に歌唱指導を導入するねらいと注意事項				
16	後期内容の説明 授業内容と方法				
17	子どもの歌と表現 自分なりに表現して楽しむ 感性をもつ ピアノ実技個人指導 ヘ長調の音階				
18	乳児、幼児の生活の中でのうた 音や動き わらべうた 手遊び ピアノ実技個人指導				
19	「表現の素材」 いろいろな素材に親しみ工夫して遊ぶ ピアノ実技個人指導 イ短調の音階				
20	「音楽と動き」の表現実践1 即時反応 音の高低 ダイナミック スペース 友達と一緒に歌ったリズム遊び				
21	幼児の興味や関心を引き出す ボディーパーカッション スティック リズム表現				
22	ICTを用いて表現の内容と指導上の留意点を理解する				
23	実例や映像から幼児の心情、動き等を考察し、指導計画を作成する				
24	身の回りにある音、自然の音 楽器あそび 手作り楽器 楽器に対する興味や関心をもつ 音を出して遊びながら音の違いを感じ、表現する楽しさを味わう ピアノ実技個人指導				
25	様々な楽器に親しむ 打楽器(スズ、カスタネット、ベルなど) リズム感、自分たちで考え表現する ピアノ実技個人指導				
26	身近な楽器に親しむ 有音程楽器1(鍵盤ハーモニカ、ハーモニカ)、ピアノ実技個人指導				
27	感動したことを伝える 友達と表現する 合奏 友達と一緒に活動する喜び 友達と心を合わせて合奏することで、みんなで作りあげる喜びや友達との信頼関係が出来る。達成感を味わう。				
28	歌唱指導を保育に活かす方法				
29	後期まとめ 課題曲の仕上げ弾き歌い実演発表				
30	感動したことを伝える 友達と表現する まとめ				
テキスト	標準「バイエル併用曲集付」「こどものうた200」「続こどものうた200」、配布プリント				
参 考 書 参考資料等	学習指導要領、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	課題実践30%、歌唱実演発表70%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
社会福祉	必修科目	講義	2単位	単独	宮島 直丈
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 「日本国憲法」第25条に根拠する、我が国社会保障制度体系についての総合的理解、及び各種社会福祉法制の相互関連的把握を目指し、もって我が国社会福祉サービスへの関心を涵養する。					
到達目標 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ・社会福祉における相談援助について理解する。 ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ・社会福祉の動向と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
社会福祉事業各分野に関する基礎的法制度の理解。各種社会福祉サービスの意義と社会的背景の理解。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	「社会福祉」を学ぶとはどのようなことなのか。				
2	「社会福祉」とは何か？				
3	「児童福祉」の領域① 保育士の法的根拠 保育所の法的根拠				
4	「児童福祉」の領域② 各種児童福祉施設の種類と役割				
5	「児童福祉」の領域③ 児童虐待の定義 社会的背景 歴史 現状と課題 I				
6	「児童福祉」の領域③ 児童虐待の定義 社会的背景 歴史 現状と課題 II				
7	「障がい児・者福祉」の領域① 「障がい」とは 障がい児・者の心理と社会的ニーズ				
8	「障がい児・者福祉」の領域② 障がい児・者関連基本法制解説				
9	「障がい児・者福祉」の領域③ 障がいを持つ子どもとのコミュニケーション(発達障害を中心に)				
10	「高齢者福祉の領域」① 少子高齢社会の現状と課題				
11	「高齢者福祉の領域」② 高齢者の心理と社会的ニーズ 認知症高齢者について				
12	「高齢者福祉の領域」③ 高齢者福祉関連各基本法制解説				
13	「低所得者福祉」の領域① 「生活保護制度」について I				
14	「低所得者福祉」の領域① 「生活保護制度」について II				
15	講義まとめ 社会福祉を学んで 定期試験				
テキスト	使用せず「PowerPoint集成」板書中心				
参 考 書 参考資料等	随時印刷物等の関係資料を配付する オフィスアワー(13:00～17:00) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	定期試験(70%)、出席状況(30%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
社会的養護Ⅰ	必修科目	講義	2単位	単独	北川 裕子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 現代社会における社会的養護の役割・援助を知り、保育士として必要な人権意識を身につける。 到達目標 ・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ・社会的養護の現状と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
社会的養護の役割や援助内容を学ぶ。 子どもの人権を尊重すること、自立を支援することとは何か、事例を用いながら学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	社会的養護とは？(理念と概念)				
2	社会的養護の歴史				
3	子どもを取り巻く状況と社会的養護の意義・役割				
4	児童観の変遷、子どもの権利擁護と社会的養護				
5	施設内虐待の防止				
6	児童虐待				
7	社会的養護の制度と法体系、仕組みと実施体系				
8	家庭養護、その他の養護				
9	社会的養護のに関わる専門職				
10	養護の基本原理				
11	施設養護の実際(支援内容)				
12	施設養護とソーシャルワーク				
13	運営管理(措置制度と利用契約制度、倫理の確立など)				
14	社会的養護と地域福祉				
15	今後の展望、試験				
テキスト	図解で学ぶ保育「社会的養護Ⅰ」 原田旬哉他編著 萌文書林				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、参考資料は授業時に紹介				
学生に対する 評 価	授業貢献度(15%)、提出物(40%)、試験(45%)等による総合評価。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子ども家庭支援論	必修科目	講義	2単位	単独	北川 裕子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 援助の技術を身につけ、子どもやその家庭支援に関する保育士や保育所の役割について学ぶ。 到達目標 ・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
子ども家庭支援の実際(内容やその意図等)を学ぶ。 また、事例を通し、自分の考えをまとめる。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子ども家庭支援の意義と役割 ①子ども家庭支援の意義と必要性				
2	②子ども家庭支援の目的と機能				
3	③子ども家庭支援における保育士等の役割				
4	保育士による子ども家庭支援の基本 ①保育士に求められる基本的態度				
5	②保育の特性と保育士の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義				
6	③保護者の相互理解と信頼関係の形成				
7	④家庭の状況に応じた支援				
8	⑤地域資源の活用と関係諸機関との連携・協力				
9	子育て家庭に対する支援の体制 ①子育て家庭の福祉を図るための社会資源				
	②子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進				
11	多様な支援の展開と関係機関との連携 ①子ども家庭支援の内容と対象				
12	②保育所等を利用する子どもの家庭への支援				
13	③地域の子育て家庭への支援				
14	④要保護児童等及びその家庭に対する支援				
15	⑤子ども家庭支援に関する現状と課題、試験				
テキスト	「子ども家庭支援論 第2版」村松和子編著 建帛社 2023.10.5				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、参考資料は授業時に紹介				
学生に対する 評 価	授業貢献度(15%)、提出物(40%)、試験(45%)等による総合評価。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
乳児保育Ⅰ	必修科目	講義	2単位	単独	中山 恵
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 乳児保育の理念・役割と歴史的変遷、保育施設における乳児保育の現状と課題について学ぶ。 3歳未満児の発育・発達について学び、保護者支援や関係機関との連携について学ぶ。					
到達目標 ・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ・保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児と、その家庭を取り巻く環境と子育て支援について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。					
授 業 の 概 要					
乳児保育の理念・役割と歴史的変遷、保育施設における乳児保育の現状と課題について学ぶ。3歳未満児の発育・発達について学び、その健全な成長を促す保育者の関わりについて理解し、乳児保育の計画作成を実践する。保護者や関係機関の特性について理解し連携の仕方を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷				
2	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的現状と課題				
3	保育所における乳児保育				
4	保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育				
5	家庭的保育・小規模保育における乳児保育				
6	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場				
7	3歳未満児の生活と環境				
8	3歳未満児の遊びと環境				
9	3歳以上児の保育に移行する時期の保育				
10	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり				
11	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者における配慮				
12	乳児保育における計画・記録・評価とその意義				
13	職員間の連携・協働				
14	保育者との連携・協働				
15	自治体や地域の関係機関との連携・協働 確認テスト				
テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑮ 2019年3月1日発行 中央法規				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	授業態度(10%)、レポート課題(10%)、確認テスト(80%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅰ	必修科目	4単位	実習	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目			
	(保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や乳幼児(利用者)との関わりを通して乳幼児(利用者)への理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、乳幼児(利用者)の関わり及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育(活動)の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士(職員)の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 1年次 2月上旬～3月下旬、 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 2年次 7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間) 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習;クラス担任(担当)と乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の活動に参加し、クラス担任(担当)の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案しクラス担任(担当)から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 園長(施設長)・主任保育士(職員)等により、実習施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)降園(帰宅)後の保育士(職員)の職務内容を理解する。				
⑤実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
日本国憲法	必修科目	講義	2単位	単独	松井 文晴
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	日本国憲法				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
この授業では以下の知識、能力を身につけることを目標とする。 ・日本を含めた諸外国の憲法の歴史を紐解き、基本的人権について、判例を通し、法的な思考方法の基礎を身につけることができる。 ・選挙等で国政に参加する際に、自らの判断で行動できるような知識を身につけることができる。					
授 業 の 概 要					
講義形式で授業をおこなう。黒板に書かれたことのみを板書するのではなく、必要に応じて、口頭で話していることをメモを取るなど習慣を身につけて欲しい。また、ニュース、新聞等で報道されている最新のものについて、DVDなどを通して講義に取り入れる。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	憲法って何？ 憲法はなぜあるのかを学ぶ				
2	憲法の歴史1(外国の憲法) 憲法はどのようにして生まれてきたのかを学ぶ				
3	憲法の歴史2(日本の憲法) 大日本帝国憲法と日本国憲法を学ぶ				
4	日本国憲法の基本原理1(憲法の三大原理) 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義について学ぶ				
5	日本国憲法の基本原理2(人の支配と法の支配) 人の支配と法の支配の違いについて学ぶ				
6	憲法と平和主義 憲法改正議論について考え、レポート提出				
7	基本的人権 人権とは何かを学ぶ(ハラスメントについてディベート)				
8	法の下での平等 いわゆる一票の価値の問題、法の下での平等の意義について学ぶ(夫婦別氏、女性のみの再婚禁止期間についてディベート)				
9	自由権 家永訴訟から表現の自由と検閲について学ぶ				
10	適正手続 なぜ、被疑者・被告人の人権が保障されるかを学ぶ				
11	社会権 労働基本権とは何かを学ぶ				
12	国会 国会の役割について学ぶ(1票の格差含む)				
13	内閣 内閣の役割について学ぶ				
14	裁判所 裁判所の役割について学ぶ(裁判員制度含む)				
15	まとめと解説 授業の総括を行う。これまでの授業のポイントを整理し、自らの言葉で説明できるようにしておくこと。				
テキスト	川端敏朗／松嶋隆弘『スタンダード法学』 芦書房 2018 ISBN:9784755612947				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	試験80%、レポート10%、授業態度10%により総合的に評価する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
体育	必修科目	講義	1単位	単独	黒羽 昭
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目				
	(保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	体育				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ (1)人の体を理解し、心身の健全な育成と健康の維持増進の重要性を理解する (2)幼児期の発達発達を理解し、体育あそびの実践に向けての基礎知識を養う					
到達目標 (1)体の仕組みや機能を理解することで健康づくりの意識を高めることができる (2)幼児の発達段階を踏まえた体育あそび実施時の安全管理を理解することができる					
授 業 の 概 要					
自分自身の健康な心と体が保育者としてどれだけ重要であるを理解させていく 幼児を取り巻く環境の変化を捉え、体育あそびの意義と必要性を学び、発達段階を踏まえた体育あそびをする時の安全管理を理解していく					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育者として健康づくりの大切さを理解する				
2	近年の子どものからだの異変やその対策				
3	子どもの生活と運動				
4	子どもの発達と運動				
5	幼児体育とは 体育あそびと運動あそび				
6	運動発現メカニズム 幼児体育指導上の留意事項				
7	運動と安全管理				
8	体育あそびの実践に向けて 筆記試験				
テキスト	幼児体育初級第6版(日本幼児体育学会編著、大学教育出版)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	授業態度(20%)、筆記試験(80%)				

令和7年度

シラバス集

第2学年



道灌山学園保育福祉専門学校

幼稚園教員・保育士養成科

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-7-15

電話 03-3828-8478

SYLLA BUS シラバス（授業計画）について

○シラバスとは

今年度開講する授業科目の名称、単位数、開講時期、学年、授業担当者名、授業の到達目標・テーマ、授業の概要、授業計画、使用するテキスト・参考資料、授業の形態、成績評価の方法等について、担当教員が記した授業の計画書です。

よく読んで、円滑に授業が受講できるよう心がけるようにしましょう。

※学生のしおりく便覧＞も良く読み、履修方法、課程修了認定、単位取得、出席要件などについての理解を深めておきましょう。

※シラバス集についての質問等は、道灌山学園保育福祉専門学校教務部へお願いします。

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育内容指導法総論	必修科目	演習	2単位	単独	野尻 裕子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等(教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
【授業のテーマ】 「環境を通した教育」といわれる保育は、「遊びを通して総合的に指導する」ことが基本にあるため、そのことの意味を正しく理解することが必要である。また生きる力の基礎を培うための「幼児期に育ってほしい資質・能力」と各領域のねらい及び内容の関係についても理解し、子どもの育ちにに応じて適切な学びが得られるような援助のあり方を具体的に考えることができるようにすることが求められる。					
【到達目標】 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 保育の多様な展開について具体的に理解する。					
授業の概要 本授業は幼児理解、指導計画立案、保育実践を行う上で重要な概念である「保育内容」について理解し、保育全体の構造を知ったうえで保育を進めることができる力を身に付ける。そのために、まず我が国における保育の歴史を概観し、現在の保育に求められているものの全体像を知る。その上で、子どもの育ちと遊びの関係や、保育を構成するものや人の重要性、保育のプロセス(PDCA)について具体的な事例を通して理解を深め、評価・改善の流れの中で保育の向上に取り組むという循環構造を知る。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育内容の基準(幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領)				
2	保育内容の歴史の変遷①(幼稚園の歴史と関連させて:昭和までの流れ)				
3	保育内容の歴史の変遷②(幼稚園の歴史と関連させて:平成以降の流れ) ※1-①				
4	保育内容の歴史の変遷③(保育所の歴史と関連させて:昭和までの流れ)				
5	保育内容の歴史の変遷④(保育所の歴史と関連させて:平成以降の流れ) ※1-②				
6	保育の計画①(長期の計画)				
7	保育の計画②(短期の計画と個別の計画)				
8	保育の計画③(立案と評価・改善) ※1-③				
9	子どもの生活と遊び				
10	保育者の様々な援助				
11	保育の記録(映像から読み取り、記述する) ※3				
12	計画の実際と修正①(0歳児) ※3				
13	計画の実際と修正②(1歳児) ※3				
14	計画の実際と修正③(2歳児) ※3				
15	計画の実際と修正④(3歳児) ※3				
16	計画の実際と修正⑤(4歳児) ※3				
17	計画の実際と修正⑥(5歳児) ※3				
18	小学校との円滑な接続(10の力)				
19	保育と年中行事				
20	子どもの育ちと園の行事				
21	子どもの学びを深める方法①(情報機器の導入)				
22	子どもの学びを深める方法②(自然事象を取り入れた活動)				
23	子どもの学びを深める方法③(飼育栽培活動)				
24	子どもの学びを深める方法④(ごっこ遊び)				
25	子どもの学びを深める方法⑤(からだを使った活動)				
26	保育の環境①(物的環境)				
27	保育の環境②(人的環境)				
28	保育における現代的課題と保育内容(多文化共生)				
29	まとめ(遊びを通して総合的に指導するということ)、テスト ※2				
30	こどももんなか社会と保育				
テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 厚生労働省『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年				
参 考 書 参考資料等	適宜、授業内で配布する				
学生に対する 評 価	※1:小テスト3回(20%)、 ※2:期末テスト(40%)、※3:授業内の課題ペーパー及び発表(30%)、※4:授業終了時に記入したリアクションペーパー(10%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
健康領域指導法	必修科目	演習	2単位	単独	吉村 眞由美
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 子どものからだところの発達、遊びの持つ意義、より良い生活習慣の獲得、自ら健康で安全な生活力を身につける取り組みを考案し、健康分野の実践的指導力を高める。					
到達目標 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
授 業 の 概 要					
現在乳幼児の生活は、急速な社会状況の変化や価値観の多様化などにより、健康的ではない方向へと変容している傾向がある。将来保育者として、子どもの置かれている状況を健康生活へと改善するポイントを学び、子どもや保護者に対する指導法を具体的事例に基づき検討を行う。					
授 業 計 画					
	授 業 内 容 等				
1	導入 健康分野の指導のねらい 健康な心とからだの育成1 課題発見個人ワーク				
2	健康な心とからだの育成2 指導法の検討、決定				
3	健康な心とからだの育成3 プレゼンの作成				
4	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)1 課題発見グループワーク				
5	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)2 指導法の検討とプレゼンの作成				
6	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)3 プレゼンと質問の投げかけ				
7	基本的生活習慣の獲得(睡眠・運動あそび)4 質疑応答と振り返り				
8	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)1 課題発見グループワーク				
9	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)2 指導法の検討とプレゼンの作成				
10	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)3 プレゼンと質問の投げかけ				
11	基本的生活習慣の獲得(食事・排泄)4 質疑応答と振り返り				
12	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)1 安全指導ワークショップ				
13	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)2 課題発見 指導法の検討とプレゼンの作成				
14	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)3 プレゼンと質問の投げかけ				
15	健康で安全な生活を送る力の育成(衛生と安全指導)4 質疑応答と振り返り 演習全体のまとめ				
テキスト	コンパス保育内容健康(前橋明編著、建帛社)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	プレゼンテーションならびに課題レポート80% 総括レポート20%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
人間関係領域指導法	必修科目	演習	1単位	単独	小藺江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼児の人間関係を育てる指導計画の作り方 到達目標 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
授 業 の 概 要					
集団生活開始時における幼児と保育者の信頼感の成立のための指導計画、平行遊び、連合遊び、共同遊びの時期の活動におけるイメージの共有や協力し合うことの楽しさの共有など狙いに沿った指導計画の作成とそれを使つての模擬保育やロールプレイの実施、意見交換や検討をグループワークで行う。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション。次回の集団生活開始(3歳)の出会いの保育場面の作り方についてイメージを出し合う。				
2	前回考えた出会いの保育場面について指導計画案を作成する。個人作業				
3	グループを編成し、前回作成した指導計画をロールプレイし合い、検討の結果を全体場面で共有する。				
4	平行遊びを楽しむ3歳の保育場面を予想し、具体的な遊びの取り上げ方についてイメージを出し合う。				
5	前回考えた平行遊びの指導や展開について指導計画案を作成する。個人作業				
6	グループを編成し、前回作成した指導計画をロールプレイし合い、検討の結果を全体場面で共有する。				
7	連合遊びが始まった幼児のイメージの共有を狙った遊びのと利上げ方についてイメージを出し合う。				
8	前回考えた連合遊びの指導や展開について指導計画案を作成する。個人作業				
9	グループを編成し、前回作成した指導計画をロールプレイし合い、検討の結果を全体場面で共有する。				
10	役割をとり協力し合つて活動を進める共同遊びの活動のイメージを出し合う。運動会、劇遊び発表会など				
11	前回考えた共同遊びの指導や展開について指導計画案を作成する。グループワーク				
12	グループごとの指導計画案を基に模擬保育を実施する。意見交換と検討を全体で行う。				
13	異年齢集団での保育活動、小学生との共同活動、地域の方々との活動のイメージを出し合い、選ぶ				
14	前回のイメージを基にグループごとに指導計画案を作成する。				
15	グループごとに指導計画についてポスター発表の用意、説明する。全体的な総括をする。				
テキスト	保育内容人間関係(榎沢良彦・入江礼子、建帛社)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	指導計画案30% グループワーク30% 授業内小論文40%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
環境領域指導法	必修科目	演習	1単位	単独	石河 信雅
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 領域「環境」の意味を十分理解する。 到達目標 幼稚園教育要領、保育所保育指針、教育・保育要領における教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 保育・教育における評価の考え方を理解している。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 グループ討議とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
授 業 の 概 要					
現代の幼児を取り巻く環境やその在り方を追求し、領域「環境」のねらいや内容について理解を深める。具体的な指導場面を想定した保育内容の計画・展開・評価についての方法を身に付ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	イントロダクション・保育の環境「光れ泥だんご」視聴				
2	保育の環境 事例「砂場と幼児」				
3	保育と環境構成				
4	園庭環境と外遊び				
5	外遊びと子ども(子供)の体力				
6	遊び・人間関係・言葉を育む環境				
7	遊び・人間関係・言葉の育成を意識した環境構成(計画立案) 指導案作成				
8	遊び・人間関係・言葉をの育成を意識した環境構成(教材研究)				
9	遊び・人間関係・言葉をの育成を意識した環境構成 (省察・評価)				
10	身近な環境・校内				
11	身近な環境・近隣				
12	身近な環境・近隣散策と安全・安全マップ作製(現地調査)				
13	身近な環境・近隣散策と安全・安全マップ作製(作製)				
14	身近な環境・近隣散策と安全・安全マップ発表				
15	まとめ 保育と環境				
テキスト	「改訂 環境構成の理論と実践」高山静子 郁洋社 2021年(第5刷)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	レポート50(%)、グループ発表30(%)、授業への取り組み20(%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
言葉領域指導法	必修科目	1単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程) 領域及び保育内容の指導法に関する科目			
	(保育士養成課程) 保育の内容・方法に関する科目			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
授業のテーマ 領域「言葉」の意味を十分理解する。保育の場における「言葉」の育つ環境を保育者として構成する力を身につける。 到達目標 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 当該領域の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。 幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。 指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。				
授 業 の 概 要				
保育内容「言葉」の領域の指導法について、基礎的事項および実際の指導法について学ぶ。人間にとっての「ことば」の重要性を踏まえ、言葉の始まりから子どもの言葉の育ちの支援を具体的に学び、支援者としての保育者の役割を理解し、力を身につける。				
授 業 計 画				
回数	授 業 内 容 等			
1	「ことば」とは			
2	子どもと「ことば」の関係			
3	領域「言葉」について			
4	胎児～0歳児の発達と保育実践			
5	1～2歳児の発達と保育実践			
6	3歳児の発達と保育実践			
7	4歳児の発達と保育実践			
8	5歳児の発達と保育実践			
9	領域「言葉」と保育の環境構成			
10	保育におけるICTの利活用			
11	ダイバーシティ・インクルージョン社会における子どもの発達と「ことば」			
12	保育における言葉と文化財			
13	小学校へのつながり			
14	言葉をめぐる相談			
15	試験			
テキスト	田中 謙編著「デザインする保育内容指導法『言葉』」教育情報出版			
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			
学生に対する 評 価	試験(70%)、授業内課題(20%)、授業態度(10%)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
表現領域指導法Ⅰ (音楽)	必修科目	演習	2単位	単独	早川 史郎
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ					
・幼児が経験し身につけるべき音楽表現の内容を理解する					
・幼児が日々の生活の中で経験する事柄とうたう歌との関わりを探る					
・幼児の表現が豊かになるためのさまざまな事柄について考える					
・歌の録音教材・ビデオの活用を考える					
到達目標					
・幼稚園教育要領及び保育所保育指針における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。					
・領域「表現」の全体構造を理解し、ねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。					
・幼児教育における評価の考え方を理解している。					
・領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。					
・幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。					
・各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。					
・指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。					
・模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。					
・各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。					
授 業 の 概 要					
幼児の一年の生活の流れに添った「うた」を選びそのうたが幼児の心・体・表現技能の発達や興味関心などどのように関わっていくかを分析し豊かな言葉かけと歌うことを中心にしながら絵本・ペープサート・パネルシアター・紙芝居・人形などの視覚的動機づけを配慮して各自発表していく。その場合他の学生は幼児の役割として参加する保育実践演習の形態となる。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	領域「表現」についてのねらい及び内容を理解し幼児が身につけていくための指導のあり方を学ぶ				
2	幼児の音楽表現の特性を知り、その活動の内容を分析する				
3	音楽表現の基礎となる言葉や音の受容活動の重要性を理解する				
4	幼児の音楽表現への興味や関心をどう育てていくかを考える				
5	幼児の音楽活動を豊かにする感性と表現技術の育ちについて考える				
6	うたう活動によって幼児が身につけていくものは何かを考える				
7	幼児の日々の生活とうたう活動の接点を探る				
8	うたの教材の音楽性・ことばなどの分析を行い幼児との接点を探る				
9	幼児が表現する楽しさや喜びを感じる要因となるものは何かを分析し、情報機器の活用を考える				
10	幼児のうたう活動と動いて遊ぶ活動とのつながりを探る・動きの刺激となる音楽を聴く				
11	他者の表現を実感し認め、さらに自らの表現を豊かにしていく音楽活動とは				
12	うたの言葉・内容を表す世界を視覚的な働きかけで拡げていくには				
13	幼児の歌う活動から広がる楽器の表現技術をどう育てていくのか				
14	幼児の心を動かすような保育者の表現技能はどう育てていくのか				
15	日本の子どもの歌の歴史を遡り、その変化・変遷から学ぶ				
16	幼児のうたを教材とした保育を想定し、指導案を作成して模擬保育を行う				
17	幼児の音楽表現活動のさまざまな形態を映像で見て学ぶ				
18	今まで分析して学んだことを基にして幼児の一年の生活に沿ったうたを選択し分析して模擬保育を行う				
19	「ともだちいっぱい」歌いながら園生活での友だちや先生との関わりを深める「せんせいとおともだち」「あくしゅでこんにちわ」				
20	「動物となかよし」幼児にとって身近な動物のうたをうたって、その生態などに興味をもつ・動物の生態DVDを観る				
21	「花の歌をうたう」いろいろな花の形や色・咲く時期をうたいながら感性を養う「おはながわらった」「たんぽぽさん」				
22	「生活・行事のうた」園でのさまざまな行事のうたをうたい、一年の時の流れを感じる「おかあさん」「思い出のアルバム」				
23	「あめすきらい」雨の時期の自然や動物たちに興味をもつうたう「あめふりくまのこ」「雨さんこんにちわ」				
24	「ヤッホッホッホ夏休み」夏の楽しい生活を想像しながら歌ったり踊ったりする CD・DVDを用いて曲を選択する				
25	「すきなものなあに」幼児の好きな食べ物のうたをうたい、食べ物の味や好き嫌いについて話し合う				
26	「うたってすごい」手遊び歌や動きの表現あそびをみんなで考えてみる・「おかあさんといっしょ」DVDを参考にして考える				
27	「楽器であそぼう」楽器遊びに移行できるようリズムカルな曲を探す・「口笛吹きと小犬」などの鑑賞曲をCDで聴く				
28	「劇遊びしましょう」幼児の知っている物語を演じてあそぶ・クラシックのCDを聴いて劇場面を想像する				
29	この模擬保育が指導計画に沿って豊かに行われたか検証する				
30	この模擬保育が幼児の表現したい気持ちを刺激し、感性の育ちを見ることができたか考える				
テキスト	「幼児の四季」春夏の歌・秋冬の歌(エーティーエヌ) 「こどものうた200」(チャイルド本社)				
参 考 書 参 考 資 料 等	「現代子どものうた1,000曲シリーズ」全十巻(エーティーエヌ)、NHK教育テレビ「おかあさんといっしょ」DVD・CD、「幼稚園教育要領」(2017.3告示文部科学省)、「保育所保育指針」(2017.3告示厚生労働省)、「幼児連携型認定こども園教育・保育要領」(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	・模擬保育においての幼児への言葉かけ・言葉の選択と響き・表情(30%) ・曲に関わる創作物の適否・効果(30%) ・うたう表現技能・ピアノ伴奏技能及び音楽性と適時性(40%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
表現領域指導法Ⅱ (絵画・造形) ※略画・折紙を含む	必修科目	演習	2単位	単独	新川 美湖
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼児造形教育の基礎的な知識、技能を演習によって習得し、子どもたちに発想力・構想力・想像力を育ませ、自分 なりの造形表現や鑑賞活動へ導く実践指導力を身につける。 到達目標 幼児造形教育における「表現」領域の内容と目標、全体構造を理解できる。 造形表現活動を通して、各発達段階ごとに幼児が身に付けていく資質・能力を理解できる。 造形表現活動における評価の考え方を理解できる。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解することができる。 各領域の特性や幼児の体験と造形表現の関連を理解し、保育の構想に活用することができる。 造形表現の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組 むことができる。					
授 業 の 概 要					
保育における造形活動の中で扱う、様々な素材やその表現方法について、基礎的な実践力を習得する。とくに、 表現することの良さや楽しさを実感しながら活動することで、子どもの表現活動の過程に共感し、表現力を育むこ とができるような保育者の感性の育成も目指す。					
授 業 計 画					
	授 業 内 容 等				
1	「表現」領域の考え方と幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い				
2	春の行事と造形表現活動1【平面】				
3	春の行事と造形表現活動2【立体】				
4	春の行事と造形表現活動3【共同制作】				
5	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い1【平面】：描画材				
6	初夏の行事と造形表現活動1【平面】				
7	初夏の行事と造形表現活動2【立体】				
8	初夏の行事と造形表現活動3【共同制作】				
9	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い2【平面】：絵の具				
10	夏の行事と造形表現活動1【平面】				
11	夏の行事と造形表現活動2【立体】				
12	夏の行事と造形表現活動3【共同制作】				
13	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い2【立体】：紙工作				
14	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い3【工作】：リサイクル工作				
15	前期のまとめと「折り紙アルバム」の提出				
16	伝統文化教育と幼児の造形1				
17	秋の行事と造形表現活動1【平面】				
18	秋の行事と造形表現活動2【立体】				
19	秋の行事と造形表現活動3【共同制作】				
20	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い4【工作】：自然物				
21	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い5【鑑賞】				
22	冬の行事と造形表現活動1【平面】				
23	冬の行事と造形表現活動2【立体】				
24	冬の行事と造形表現活動3【共同制作】				
25	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い6【立体】：粘土				
26	伝統文化行事と幼児の造形2				
27	伝統文化行事と幼児の造形3				
28	協働学習を含むICTの活用と制作				
29	共同学習を含むICTの制作と鑑賞				
30	表現領域指導法(絵画・造形)のレポートの提出と講評				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保 連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	学習への意欲や態度(40%)、各授業のレポート課題と学習記録(60%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教職概論(幼) 保育者論(保)	必修科目	講義	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的の関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校への対応)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 教職・保育職を目指す者として、必要な法令、制度、社会規範・倫理等の概要を知り、教職・保育職の役割を理解し、その使命感と自覚を高め、専門性のある信頼される保育者となる重要性を認識させる。また、チーム学校・保育に関わる連携・協働や資質向上とキャリア形成について理解させる。					
到達目標 ・公教育や保育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ・進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。 ・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員・保育士に求められる役割を理解している。 ・今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。 ・幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校(園)務を含めた教員の職務の全体像を理解している。 ・教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 ・教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解している。 ・校(園)内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。 ・保育者の役割と倫理について理解する。 ・保育士の制度的な位置づけを理解する。 ・保育士の専門性について考察し、理解する。 ・保育者の連携・協働について理解する。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解する。					
授 業 の 概 要					
・教職・保育職の意義及び教員の役割を知り、その特質を理解する。 ・教員・保育士の職務内容、服務、研修等について知り、職業人となる心構えを培う。 ・教育・保育課題等を理解し、求められる基本的な資質や能力を自ら高める姿勢を育てる					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	はじめに 教職観・保育者観の変遷と身分保障等				
2	教職・保育職の意義と専門職として身に付けること				
3	教員・保育士の役割と教育職・保育職としての社会的立場と法令				
4	求められる教員・保育士の資質能力と望まれる教師像・保育士像				
5	服務規律と分限・懲戒				
6	勤務と職務内容及びチーム学校・保育に関わる連携・協働				
7	今日的教育課題・保育課題				
8	教育・保育目標と教育課程・保育の計画				
9	幼稚園教育要領・保育所保育指針と指導計画・評価				
10	教員に求められる4つの力 ー学習指導(保育)力ー				
11	教員に求められる4つの力 ー生活指導力・進路指導(小学校との繋がり)力ー				
12	教員に求められる4つの力 ー外部との連携・折衝力ー				
13	教員に求められる4つの力 ー学校経営力・組織経営力(チーム学校)ー				
14	専門性の向上と職務としての研修 ー資質向上とキャリア形成ー テスト				
15	まとめ 幼稚園・保育園の一日 進路・就職と採用試験について等				
テキスト	『教職概論・保育者論(九訂版)』 森藤 才著 道灌山学園保育福祉専門学校印刷・頒布				
参 考 書 参考資料等	・『幼稚園教育要領<平成29年告示>』 文部科学省 フレーベル館 2017年 ・『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館 2018年 ・『保育所保育指針』 厚生労働省 フレーベル館 ・『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 ・『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館				
学生に対する 評 価	・講義時の発問に対する回答内容による意欲・知識・理解の程度(10%) ・レポートの記述内容と論理性及び文章力(40%) ・テストの成績(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
発達心理学Ⅰ(幼) 保育の心理学(保)	必修科目	講義	2単位	単独	野原 将英
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。					
到達目標 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 ・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 ・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
授 業 の 概 要					
心身の発達過程について基礎的な知識を習得し、発達の特徴を踏まえた視点から子どもへの理解を深める。乳幼児期から青年期の身体・運動、知覚、情緒、認知、社会性などの発達について学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	発達とは - 遺伝と環境、生涯発達-				
2	発達の原理 - 分化と統合 -				
3	身体・運動機能の発達 - 神経系の発達、原始反射と随意的な活動 -				
4	知覚の発達 - 視覚・聴覚の発達 -				
5	情緒の発達 - 感情の発生と発達 -				
6	愛着と親子関係 - 愛着の形成と親との関わり -				
7	認知の発達 - 思考の発達、ピアジェの認知発達理論 -				
8	ことばの発達 - コミュニケーションの発達、内言と外言 -				
9	知的機能の発達 - 記憶の発達、学習と動機づけ -				
10	発達障害の理解と支援 - 知的能力障害、LD、ADHD、ASD -				
11	社会性の発達 - 心の理論、道徳性の発達 -				
12	自我の発達 - 自律と自己概念 -				
13	遊びの発達 - 遊びの理論と特性 -				
14	児童期～青年期の発達 - 社会的かかわりとアイデンティティ -				
15	定期試験、乳幼児期から青年期における心身の発達についてのまとめ				
テキスト	なし				
参 考 書 参考資料等	『ベーシック発達心理学(開一夫・齋藤慈子編 東京大学出版会)』、『図でわかる発達心理学(新井邦二郎編著 福村出版)』、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	定期試験(80%)、授業中の態度(20%)により評価する				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
発達心理学Ⅲ(幼) 子どもの理解と援助(保)	必修科目	演習	1単位	単独	小藺江 幸子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 保育の質を分ける子ども理解の姿勢 到達目標 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解している。 ・乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。 ・様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 ・主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解している。 ・保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ・子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 ・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。					
授 業 の 概 要					
主な発達理論を身体的・社会的・心理的側面から学び、認知的・社会的に学習理論を学ぶ。後半は事例をもとに分析的視点も養う。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	発達における生得的要因、環境的要因、心理的要因についてロック、ルソー、シュテルンの理論を軸に学ぶ				
2	運動発達について胎生期から就学期までを見通す。				
3	認知的発達について新生児期から青年期までを見通す。ピアジェの理論を軸に学ぶ。				
4	社会性の発達について乳児期から青年期を見通す。エリクソン、パーテン、コールバーグの理論を軸に学ぶ				
5	言語発達について乳児期から就学期を見通す。シュテルン、チョムスキーの理論に触れる。				
6	学習の基礎となる条件付け、社会的学習のタイプとしてのモデリング、代理経験などについて学ぶ。				
7	学習のメカニズムとしての動機付け、集団と個の相互作用について学ぶ。				
8	個人差と発達のかたより、特別な配慮を必要とする事例について学ぶ。				
9	子ども理解の方法としての関わり(実践)、記録、省察、討論、想像力活性のための方略について学ぶ				
10	子ども理解の事例1 内発的動機付けからの理解				
11	子ども理解の事例2 保育者の想像力不足の反省				
12	子ども理解の事例3 発達の偏りの理解				
13	子ども理解の事例4 想像力の不足に起因する社会性やパーソナリティーの問題				
14	子ども理解の事例5 自我の斉一性、アイデンティティのもとになる孤独感の例 確認的小テスト実施				
15	総合的まとめ 提案された新事例をもとに小論文を作成しながら総合的に振り返る予定である。				
テキスト	よくわかる保育心理学(鯨岡峻、ミネルヴァ書房)				
参考資料	よくわかる発達心理学(ミネルヴァ)、教育心理学-保育者をめざす人へ-(樹村房) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	小テスト50% 平常点20% 小論文、提出物30%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
特別支援教育概論(幼) 障害児保育(保)	必修科目	演習	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 「共生社会における特別支援教育の在り方」及び「個々の幼児の障害特性に基づく保育における支援」の方法について理解を深める。 到達目標 ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的 特性及び学習の過程を理解している。 ・視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上 又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法 について例示することができる。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する 意義と方法を理解している。 ・特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解して いる。 ・母国語や貧困の問題等により障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は 生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解 する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
特別な支援を要する子ども(幼児)の理解と支援方法を中心に、その子どもを取り巻く生活・教育環境、特別支 援教育の理念等を含めて障害児保育の基礎的知識を学習する。特に、保護者・関係機関との連携、事例に基 づく個別の指導計画の作成などは、グループによる検討・発表、体験的な学習など授業形態の授業を通して、 保育現場で活用できる実践的・専門的指導・支援力を身に付ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	障害児保育の概要について(障害者を取り巻く環境【生活、福祉、法制度】等)				
2	障害児・者の教育に関する歴史的変遷 (学制発布前から特殊教育そして特別支援教育へ)				
3	インクルーシブ教育と合理的配慮 (共生社会、多様な学び場の整備、障害者差別解消法等)				
4	障害児の早期教育と療育及び関係機関との連携(早期発見及び早期教育・療育)				
5	障害児のための学校教育(学校教育制度と卒業後の障害児将来像について)				
6	視覚障害児の理解と保育について(視覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
7	聴覚障害児の理解と保育について(聴覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
8	肢体不自由児の理解と保育について (肢体不自由の特徴及び支援・配慮の方法について)				
9	知的障害児の理解と保育について①(知的障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
10	知的障害児の理解と保育について②(知的障害児の保育について:グループ討議)				
11	病弱・身体虚弱児の理解と保育について(病弱・身体虚弱の特徴及び支援方法について)				
12	様々な障害を体験しよう(アイマスク(視覚障害)、車いす(肢体不自由)等)				
13	情緒障害児・言語障害児の理解と保育について(支援・配慮の方法について)				
14	重複障害児・医療的ケア児の理解と保育について(具体的な支援と主治医との連携について)				
15	自閉症児の理解と保育について(自閉症スペクトラムの特徴及び支援・配慮の方法について)				
16	LD(学習障害)児の理解と保育について(LD児の特徴及び支援・配慮の方法について)				
17	ADHD(注意欠陥多動性)児の理解と保育について(ADHD児の理解と保育について)				
18	発達障害の子どもへの具体的な支援について(アプローチの方法を考えてグループ討議)				
19	多様な支援を必要とする乳幼児の理解と保育について(日本語を母語としない子ども、被虐待児等の対応、貧困家庭児等)				
20	保護者や家族に対する理解と支援①(保護者の兄弟姉妹の障害受容に焦点を当てて)				
21	保護者や家族に対する理解と支援②(就学に向けての事例をもとにグループ協議)				
22	個別の指導計画と個別的教育支援計画の意義と作成手順の理解について				
23	事例課題に基づく個別の指導計画と個別的教育支援計画の作成と指導・支援方法の検討				
24	個別の指導計画と個別的教育支援計画の活用方法(評価と記録方法を含む)				
25	障害のある乳幼児の発達と環境(発達を促すための生活及びあそび環境の工夫)				
26	障害児の就学相談について(小学校との接続)				
27	地域の専門機関・関係機関との連携				
28	子ども同士の関わり合い(統合保育・分離保育・並行通園等の様々な形態と育ちの過程)				
29	障害児保育のあり方について(職員間の協働と組織としての保育環境整備について)				
30	障害児保育の現状と課題(共生社会の実現を支える幼稚園教諭・保育士の心構え)				
テキスト	特別支援教育概論・障害児保育(五訂版、森藤 才著)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教 育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	定期試験(50%)、授業参加点(30%)、レポート提出(20%)の割合で総合的に判断する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子育て支援	必修科目	演習	2単位	単独	吉濱 優子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	指導法及び教育相談等に関する科目				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ ・「子育て支援」の考え方を様々な方面から考え、保育者としてどのように対応していくか、「専門性を生かした対応」とはどういうことか、現代社会の実際を踏まえたそれぞれの事例を通して学びながら、問題のとらえ方・対応方法などについて考えていく。保育現場の実際例を通して「保育の今」を知り、より実践的な学びを深める。					
到達目標 ・保育者の行う保育の専門性を背景にした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ・保育者の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践技術に活かす。					
授 業 の 概 要					
社会の変化や価値観の多様化により、子どもが健全に育つべき家庭の姿の変容が著しい。家庭の教育力の低下も問題になっており、子育てを支える「社会の役割」は大きく、その中核となる保育機関への期待やその使命等を理解し、教科書による知識の習得と「現場の実際」を踏まえたより実践的な学びを深めていく。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション(授業内容・授業の進め方・評価等) 子どもの保育とともに行う保護者支援				
2	日常的なかかわりを通じた保護者との相互理解				
3	保護者や家族の抱えるニーズへの気づきと多面的な理解				
4	子ども及び保護者の状況・状態の把握 pp慣らし保育について				
5	支援の計画と環境の構成 pp保育所の1年				
6	支援の実践・記録・評価・カンファレンス pp実践に向けての一步『保育所における保育実習』				
7	職員間の連携・協働				
8	社会資源の活用と自治体関係機関や専門職との連携と協働 実習:連絡帳の役割				
9	保育所における子育て支援 pp保育所保育指針の考え方				
10	地域の子育て家庭とひとり親家庭への支援				
11	障害のある子ども及び家庭に対する支援 実践例を通して				
12	特別な配慮を要する子どもと家庭への支援～発達障害児～				
13	子ども虐待の予防と支援 要保護児童等の過程への支援～DV家庭～				
14	多様なニーズを抱える子育て家庭への支援～貧困家庭～				
15	まとめ pp保護者支援と子育て支援 小テスト				
テキスト	「基礎から学ぶ 子育て支援の実際」(太田敬子・檜垣昌也 編著)[大学図書出版]				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	授業終了後の課題提出・小テスト(50%)・授業態度と授業に臨む積極性(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
幼児理解の理論・方法と教育相談	必修科目	演習	2単位	単独	向山 陽子
施行規則に定める科目区分	(教員養成課程)道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (保育士養成課程) 保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが必要な事項等 (教員養成課程)	・幼児理解の理論及び方法 ・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ ・映像などの事例から、発達적視点からの乳幼児理解と、子育てする人への理解を深め、傍らにいる者としての保育者の在り方、及び相応しい関わり方を、常に考えながら、行動できるように努めること。また、事例を書けるように演習する。					
到達目標 ・幼児理解における観察と記録の意義を理解する。 ・幼児の心身の状態を、発達적視点、乳幼児、保育者との関係、社会的背景から理解する。 ・保育者として、乳幼児と子育てする人への、受容、傾聴、共感的理解の姿勢を学び、身につける努力をする。 ・特別な支援ニーズを持つ子どもとその保護者への理解に努める。 ・いじめ、不登園、虐待等の相談に関する留意事項を理解する。 ・地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義と必要性を理解する。					
教科書、講師作成資料を参考に、乳幼児理解の実際と教育相談に必要な基礎知識を理解する。 保育現場の映像を視聴し、乳幼児理解と、保育者の対応についての考察を深め、保護者からの相談に応える演習を積む。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育における乳幼児理解の意義				
2	発達を促進する環境				
3	乳幼児理解1(発達の視点から乳幼児期を理解する)、乳幼児理解を深める保育記録および省察と評価				
4	環境を通じた遊びと学び				
5	運動と身体感覚				
6	言葉と文字				
7	数と数量感覚				
8	個性の育ち				
9	仲間関係の育ちとクラス集団の育ち				
10	特別な配慮を必要とする乳幼児の理解と援助				
11	家庭との連携を通じた乳幼児理解と援助				
12	特別なニーズを持つ家庭との連携・協働				
13	保育者間の連携を通じた発達援助				
14	発達と学びの連続性と就学支援				
15	改めて、現代の乳幼児と子育てをめぐる状況と保育者に求められる役割				
16	保育者が行う教育相談とは何か				
17	相談援助の理論と援助1(聴き方)				
18	相談援助の技術2(保護者との関係づくり)				
19	再び、乳幼児理解1(発達の視点から乳幼児を理解する)				
20	乳幼児理解2(問題のアセスメント)				
21	乳幼児理解3(問題行動のとらえ方)				
22	乳幼児期のいじめ問題と児童期以降のいじめ問題への対応				
23	乳幼児期の不登園と児童期以降の不登校への対応				
24	特別な支援を要する乳幼児への対応1(理解と支援の考え方)				
25	特別な支援を要する乳幼児への対応2(支援の実際の基礎)				
26	それぞれの発達障害の特徴と支援のポイント				
27	障害を持つ乳幼児・気になる保護者(虐待・貧困を含む)への対応				
28	「困った保護者」への対応				
29	医療的ケア児への対応				
30	試験・まとめ				
テキスト	特記事項なし				
参 考 書 参考資料等	・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領「解説」				
学生に対する 評 価	試験70%、小レポート20%、出席・態度10%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育・保育実習指導Ⅰ	必修科目	演習	2単位	オムニバス	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育実践に関する科目				
	(保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育実習				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 一連の実習における意義を理解し、実習での教育・保育理解を深めるための態度・知識・技術などの習得を目指す。 到達目標 ・教育・保育実習の意義・目的を理解する。 ・実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ・幼稚園・保育所の役割、機能、日々の保育の流れを理解する。 ・意欲的かつ積極的に事前準備を行うことができる。 ・子どものかかわりを通して子どもに対する理解を深め、適切な関わりについて学ぶ。 ・実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ・実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。					
授 業 の 概 要					
実習の意義と目的を理解し、その学びより自分の実習の目的を明確にする。 実際の保育に即した実習日誌の書き方を学び、確実に身に着ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 授業の進め方、評価の方法について (池田幸代)				
2	実習の意義と目的、実習スケジュールについて (池田幸代)				
3	保育園の一日の流れ (池田幸代)				
4	実習記録の取り方①記録の意義 (池田幸代)				
5	実習記録の取り方②一日の流れ (池田幸代)				
6	実習記録の取り方③子ども理解と保育者に対する気づき (池田幸代)				
7	保育所実習の準備①基本的なマナーと実習の種類 (池田幸代)				
8	保育所実習の準備②園の種類と実習園の選択 (池田幸代)				
9	保育所実習の準備③書類の書き方 (池田幸代)				
10	保育所実習の準備④オリエンテーションについて (池田幸代)				
11	発達の違いと子どもとの関わり方 (池田幸代)				
12	指導案の作成(絵本の読み聞かせ) (池田幸代)				
13	模擬保育(絵本の読み聞かせ) (池田幸代)				
14	指導案の作成(制作物・ルールのある遊び) (池田幸代)				
15	模擬保育(制作物・ルールのある遊び) (池田幸代)				
16	幼稚園実習について (石河信雅)				
17	部分実習指導案(0～2歳と玩具) (石河信雅)				
18	部分実習指導案(3～5歳と玩具) (石河信雅)				
19	部分実習指導案(製作)模擬保育 (石河信雅)				
20	子ども(子供)の人権と実習生として守るべきこと (石河信雅)				
21	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について (石河信雅)				
22	非認知能力について (石河信雅)				
23	エピソード記録について (石河信雅)				
24	絵本について (石河信雅)				
25	ストーリーテリング・素話1 (石河信雅)				
26	ストーリーテリング・素話2・発表会 (石河信雅)				
27	遊びからの学び (石河信雅)				
28	支援を要する子ども(子供)の理解 (石河信雅)				
29	保育者としての専門性 (石河信雅)				
30	まとめとしての実習への心得 (石河信雅)				
テキスト	『成長し続ける教育・保育実習』 教育情報出版				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物(30%)、授業内課題(50%)、模擬保育(20%)による総合評価				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
教育実習	必修科目	I 部2単位 II 部4単位	実習	石河 信雅
施行規則に定める各科目区分又は事項等	(教員養成課程)教育実践に関する科目			
	(保育士養成課程)大学が独自に設定する科目			
各科目に含めることが必要な事項等 (教員養成課程)	教育実習			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。 ・幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 ・指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 ・教育実習園の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 ・学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。 ・幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。 ・保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を実地に即して身に付けるとともに、幼児の体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。 ・学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 ・様々な活動の場面で適切に幼児と関わるすることができる。				
教 育 実 習 実 施 計 画				
教育実習の内容及び成績評価等				
①教育実習の時期 幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部2年次 5月上旬～5月下旬、または、11月上旬～11月下旬 幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部2年次 5月上旬～5月下旬、11月上旬～11月下旬				
②教育実習の実習期間・総時間数 幼稚園 Ⅰ部 2週間 (90時間) Ⅱ部 4週間 (180時間)				
③実習校の確保・方法 養成校が指定する幼稚園及び実習生が希望する実習園から選び内諾を得る。				
④教育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習・責任実習を必ず実施する。 ○観察実習; 幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習; 実習園学級担任と幼児の活動に参加し、学級担任の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習; 実習生が部分実習指導計画案を立案し学級担任から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 ○責任実習; 実習生が責任実習指導計画案を立案し学級担任から指導を受け、登園から降園までの1日の活動を担当し実施する。 園長・主任教員等より、幼稚園の運営方針や教育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。 幼児降園後の教職員の職務内容を理解する。				
⑤教育実習生に対する指導の方法 ○実習講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとして、実習を体験した学生からの発表を聞き、自身の実習の参考にする。 ○実習前に、担当教員が事前指導を行い、課題の確認や準備について面接する。 ○指導教員が実習園へ巡回指導を行い、実習進行状況の確認を行う。教育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。 ○実習後、実習を通しての学びや今後の課題などについて担当教員と振り返りをする。				
⑥教育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習園からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 『成長し続ける教育・保育実習』教育情報出版『保育実習リアルガイド』学研教育みらい			

シラバス

授 業 科 目 名		教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育実践演習(幼) 保育実践演習(保)		必修科目	演習	2単位	クラス分け	山下 亜希子 和田 珠実
施行規則に定める 科目区分		(教員養成課程)教育実践に関する科目				
		(保育士養成課程)総合演習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)		教職実践演習				
履修 時期	2年次 前期・後期	履修履歴の把握		○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 78人(2クラス) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Aクラス44名、①グループ(19名) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Aクラス44名、②グループ(19名) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Bクラス44名、①グループ(19名) ・I部幼稚園教員・保育士養成科Bクラス44名、②グループ(19名)						
教員の連携・協力体制 ・担当教員2名の協力体制で実施。						
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標						
本授業のテーマ 保育者としての自覚を持ち、「幼児期に育てたい資質・能力」について理解し、そのために一人ひとりの子どもの育ちを保障するために、多様な経験に対する援助を適切に行うことができる専門職を目指す。 到達目標 ・教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。 ・高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。 ・子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。 ・保育者としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 ・組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。 ・保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。 ・子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。 ・子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 ・保育内容5領域の内容を理解しているなど、幼児教育の基本的事項を身に付けている。 ・言葉かけ、表情など保育を行う上での基本的な表現力を身に付けている。 ・子どもの発達状況に応じて、指導計画や教材活用を工夫することができる。 ・指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ・上記を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。						
授 業 の 概 要						
これまでの保育者養成課程における学修を振り返り、グループ討議、ロールプレイング、模擬保育等の実践的な学習を自主的、主体的に行い、自らの課題を認識し、子どもの育ちを支える保育者としての職務に携わることの自覚を高めていく。						
授 業 計 画						
回数	授 業 内 容 等					
1	教職実践演習とは(講義と進め方・教科の目的と意義) グループ決め①					
2	グループディスカッション「学修の振り返りと課題の確認」					
3	「手作り教材の活用」教材作成と実践					
4	5領域「人間関係」における遊びの実践と考察					
5	模擬保育①					
6	ロールプレイング「子どもの多様性について考える」					
7	「身近な素材で作って遊ぶ」教材作成と実践 グループ決め②					
8	5領域「健康」におけるあそび実践と考察					
9	模擬保育②					
10	ドキュメンテーションの作成「夏休みの経験から」					
11	ドキュメンテーションで伝える					
12	グループディスカッション「相手の思いに寄り添う」					
13	望ましい環境について考える					
14	乳児の理解を深める					
15	乳児期の子どもの姿の読み取りや援助について					
16	5領域「環境」における「園内環境を使つての遊び」の実践 グループ決め③ 担当者交代					
17	「自然を感じる遊び」教材作成と実践					
18	5領域「表現」におけるあそび実践と考察					
19	模擬保育③					
20	グループディスカッション「2,3人での遊び」の実践 と 遊びのレシピNO.4の作成					
21	模擬保育④					
22	5領域「言葉」における「標識や文字に親しむ遊びの理解」と実践					
23	グループディスカッション「数や図形に親しむ遊びの理解」と実践 グループ決め④					
24	エピソード記録の理解と実践					
25	グループディスカッション「伝統行事について」遊びのレシピNO5の作成					
26	グループ発表「伝統行事について」					
27	保育者や保護者とのコミュニケーション					
28	「遊びのレシピ」の製本 コミュニケーションゲーム					
29	グループディスカッション「これまでの学びの振り返り」					
30	これからの保育者に必要な資質能力について					
テキスト		適宜、授業内で資料を配布する				
参 考 書 参考資料等		幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価		発表 (30%)、提出物 (60%)、授業参加態度 (10%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育内容の理解と方法Ⅱ ※児童文化、保育技術研究、卒業研究を含む	必修科目	演習	2単位	複数	菅野 清子 阿部 恵
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幅広い保育の技術を総合的に学び、更にグループで保育技術研究に取り組み、その成果を発表する。また、研究発表のまとめや資料作りなど、保管資料として完成させる。新しい保育技術の取り組みを、個人やグループワークなどで、スキルアップしていく。					
到達目標 ・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。					
授業の概要					
・グループで、研究発表したものをふりかえり、その成果を、記録にまとめる。 ・保育の現場で活かせる技術を、スキルアップし、表現力を学ぶ。 ・伝承遊びの研究や、コミュニケーションを取り入れたあそび等、グループワークに取り組む。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育技術研究：保育内容の基礎技能・目的やねらい等を理解し、グループで取り組む				
2	保育技術研究：研究計画 グループ分け 研究分野の特徴と特色の理解と目標				
3	保育技術研究：題材選びと脚本作り 発表までの研究計画の立案と記録の取り方				
4	保育技術研究：役割決め キャスティング 効果など				
5	保育技術研究：舞台効果 背景、大道具 小道具 音響 照明 衣装の取り入れ方等の研究				
6	保育技術研究：グループごとに研究活動① 発表までの活動計画 道具、材料等				
7	保育技術研究：グループごとに研究活動② 音響効果と設備の使い方				
8	保育技術研究：グループごとに研究活動③ 舞台と照明の関係				
9	保育技術研究：グループごとに研究活動④ 全体の通し練習				
10	保育技術研究：グループごとの最終見直しと、技術解説のまとめ				
11	保育技術研究：研究発表のふりかえり グループワーク 研究記録の作成について				
12	保育技術研究：研究記録のまとめ方① 写真 参考文献の扱い方 データ作成				
13	保育技術研究：研究記録のまとめ方② 個人やグループごとに研究紀要作成				
14	保育技術研究：研究記録の作成 グループワーク ふりかえり				
15	前期のまとめ：自身をふりかえり、後期の教育実習に向けて 今後の課題と目標設定				
16	後期の目標と課題 スキルアップと探究心について				
17	からだあそび① 子どもたちとのコミュニケーションづくり アイスブレイキング表現あそび				
18	からだあそび② 子どもたちとのコミュニケーションづくり 音楽や手作りのもの				
19	オリジナルのパネルシアターを作る(スキルアップ)①日常保育に活かす				
20	オリジナルのパネルシアターを作る(スキルアップ)②日常保育に活かす				
21	手作りの伝承遊び				
22	手作り人形①手袋・くつしたなど身近なものを利用				
23	手作り人形②コミュニケーションをとる技術法				
24	園だよりやクラスだよりの作成① 重要性和必要性 グループワーク				
25	園だよりやクラスだよりの作成② 作成のポイント 役割 グループワーク				
26	園だよりやクラスだよりの作成③ 構成と校正 レイアウト				
27	園だよりやクラスだよりを、グループごとに発表する				
28	異年齢に応じた集団遊び 全体集会などで活用できるもの				
29	パネルシアター等のスキルアップを発表する				
30	パネルシアター等のスキルアップを発表する 総合演習 まとめ 保育技術の展開				
テキスト	すきま時間あそび 阿部恵著 すずき出版				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	授業態度(20%)グループや個人の発表(40%)課題の取り組みと提出物(40%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育内容の理解と方法Ⅲ (音楽)※発表会、歌検を含む	必修科目	演習	4単位	クラス分け・ 単独	(五十音順) 笠原亮子、菅野まゆみ 高橋由紀子、高橋洋子 田口千恵、深谷佳代子 星川美生、松姫俊彦 中村麻里子、渡部さやか
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 教育者として必要とされる音楽の基礎知識を身に付ける。 歌、言葉、遊び、動き、リズム等を活用した音楽にかかわる表現を習得する。 幼稚園、保育園の現場で求められるピアノ伴奏、表現の基礎を習得する。 楽器の音色に気づき表現できるようにする。 ピアノ、歌唱の表現法を身につける。わらべうたの音階。 幼稚園教育要領、保育所保育指針の領域(表現)のねらいを明確に理解する。 共通教材・選択教材の歌、伴奏、弾き歌いができる。 ピアノや各楽器を通して音楽を多角的に捉え、臨機応変に使うことができる。 色々な音色のハーモニーの美しさに気づき、感動、達成感、充実感を、合奏を通して体験する。 到達目標 ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。					
授 業 の 概 要					
感性、思考、イメージを経験し、感性、表現する力を養い、創造性を豊かにしていく。 素材や方法を工夫し、活用出来るよう指導。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
31	オリエンテーション、担当教員の紹介、授業内容と方法				
32	歌う表現活動の展開「自分なりの表現」を楽しむ。歌う表現技能 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 春」ピアノ実技個人指導				
33	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 春」ピアノ実技個人指導				
34	生活の中にある音、動き、身体など総合的表現活動の実践				
35	教材の様々な実践 コード奏、伴奏法				
36	歌う表現活動の展開「生活の中での音や動き」季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 夏」				
37	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 夏」ピアノ実技個人指導				
38	自分なりの表現。表現の喜び。感じたこと・考えたことを音や動きで表現 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊び ピアノ実技個人指導				
39	言葉とリズム わらべうたの実践 生活の中での短い歌 乳幼児、幼児に関してグループ別で指導案作成				
40	歌う表現活動の展開「感動したことを伝える」 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 秋」ピアノ実技個人指導				
41	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感に親しむ 豊かな感性「季節の歌 秋」ピアノ実技個人指導				
42	乳児の発達や表現の姿 手あそび、身体動作「乳児の歌」				
43	前期まとめ課題曲1曲選曲の仕上げ				
44	前期 歌唱表現 弾き歌い実演発表				
45	表現方法を活かした保育				
46	後期授業内容の説明 音楽表現の実践				
47	歌う表現活動の展開「自分なりの表現」を楽しむ。歌う表現技能 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
48	みたもの、美しいもの、イメージづくり 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
49	「音楽と動き」の表現実践2 言葉を使って、身体を使って感じたこと、考えたことを音、言葉、身体で表現				
50	「言葉とリズム」の表現実践 各種楽器演奏法 打楽器 各種楽器演奏法 打楽器 音楽に親しむ リズム楽器を楽しむ				
51	「言葉とリズム」の表現実践 各種楽器演奏法 有音程楽器2(鉄琴、木琴、ハンドベル、など) 合奏				
52	歌う表現活動の展開「感動したことを伝える」 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
53	歌う表現活動の展開「感動したことを伝える」感じたこと、考えたことを音や動きで表現 季節感を感じる 豊かな感性「季節の歌 冬」ピアノ実技個人指導				
54	年間行事、園行事、生活の中の歌や動き、感動、感性を伝える 園生活での活動「行事の歌」ピアノ実技個人指導				
55	幼児の興味や関心を引き出す「いつでも歌える歌」ピアノ実技個人指導				
56	幼児の興味や関心を引き出す「いつでも歌える歌」ピアノ実技個人指導の継続				
57	ICTを用いて音楽表現の在り方を学ぶ 実例や幼児の心情、認識、思考、動き等を考案し、幼児が経験し身につけていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。				
58	表現に合わせた音楽を考える				
59	後期音楽表現 弾き歌い実演発表				
60	弾き歌いの仕上げ				
テキスト	標準「バイエル併用曲集付」「こどものうた200」「続こどものうた200」、配布プリント				
参 考 書 参考資料等	学習指導要領、幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	課題実践30%、歌唱実演発表70%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
社会福祉	必修科目	講義	2単位	単独	宮島 直丈
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 「日本国憲法」第25条に根拠する、我が国社会保障制度体系についての総合的理解、及び各種社会福祉法制の相互関連的把握を目指し、もって我が国社会福祉サービスへの関心を涵養する。					
到達目標 ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ・社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ・社会福祉における相談援助について理解する。 ・社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ・社会福祉の動向と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
社会福祉事業各分野に関する基礎的法制度の理解。各種社会福祉サービスの意義と社会的背景の理解。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	「社会福祉」を学ぶとはどのようなことなのか。				
2	「社会福祉」とは何か？				
3	「児童福祉」の領域① 保育士の法的根拠 保育所の法的根拠				
4	「児童福祉」の領域② 各種児童福祉施設の種類と役割				
5	「児童福祉」の領域③ 児童虐待の定義 社会的背景 歴史 現状と課題 I				
6	「児童福祉」の領域③ 児童虐待の定義 社会的背景 歴史 現状と課題 II				
7	「障がい児・者福祉」の領域① 「障がい」とは 障がい児・者の心理と社会的ニーズ				
8	「障がい児・者福祉」の領域② 障がい児・者関連基本法制解説				
9	「障がい児・者福祉」の領域③ 障がいを持つ子どもとのコミュニケーション(発達障害を中心に)				
10	「高齢者福祉の領域」① 少子高齢社会の現状と課題				
11	「高齢者福祉の領域」② 高齢者の心理と社会的ニーズ 認知症高齢者について				
12	「高齢者福祉の領域」③ 高齢者福祉関連各基本法制解説				
13	「低所得者福祉」の領域① 「生活保護制度」について I				
14	「低所得者福祉」の領域① 「生活保護制度」について II				
15	講義まとめ 社会福祉を学んで 定期試験				
テキスト	使用せず「PowerPoint集成」板書中心				
参 考 書 参考資料等	随時印刷物等の関係資料を配付する オフィスアワー(13:00～17:00) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	定期試験(70%)、出席状況(30%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子どもの食と栄養	必修科目	演習	2単位	単独	橋内 範子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 子どもの健康と発育過程を理解させて離乳食・幼児食を食べさせられるようにする。健康と食生活の大切さを子どもに教えられるようにする。					
到達目標 ・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・関連するガイドライン(参考資料)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。					
授 業 の 概 要					
講義内容を復習しながら調理実習を行う。食育の媒体を作成し、食への理解と関心をもつ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	食生活の意義について				
2	自分の食生活について考える				
3	食品と栄養について				
4	食事摂取基準・献立作成				
5	乳児期の栄養・妊娠期の食生活について				
6	離乳食について・衛生管理				
7	離乳食初期 調理実習				
8	離乳食中期 調理実習				
9	離乳食後期・完了期調理実習				
10	離乳食まとめ 小テスト				
11	幼児期の食事について				
12	幼児期調理実習(3～5歳)				
13	幼児期調理実習(間食)				
14	幼児期お弁当・行事食献立作成				
15	幼児期調理実習(お弁当)				
16	幼児期調理実習(行事食)				
17	幼児期の食生活の問題点				
18	学童期の食生活・幼児期の食事のまとめ 小テスト				
19	食育について				
20	三色食品群媒体作り				
21	食育の歌を考える				
22	食育の歌発表				
23	食育カルタ作成				
24	食育カルタ発表・地域の関係機関との連携				
25	食育のまとめ・小テスト				
26	食育だより作成				
27	乾物を使った幼児期調理実習				
28	児童福祉施設における食事と栄養				
29	特別な配慮を要する子どもの食事と栄養				
30	子どもの食生活の現状と課題・防災食・まとめ				
テキスト	最新子どもの食と栄養(飯塚美和子編著、学建書院)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物(40%)、授業中の態度(20%)、小テスト(40%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
社会的養護Ⅰ	必修科目	講義	2単位	単独	江田 祐子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 社会的養護の果たすべき役割を理解しながら、保育・教育者として必要な知識取得と感受性の研鑽を目指す。					
到達目標 ・現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。 ・子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。 ・社会的養護の制度や実施体系等について理解する。 ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。 ・社会的養護の現状と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
社会的養護を支える各施設・機関の取り組みについて、体系的に学ぶ。現場実践について映像なども紹介し理解を深める。原則、授業毎にリアクションペーパー提出することで確かな気づきと知識の整理を行う。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	イントロダクション～社会的養護問題が発生する「社会」の現況を概観する(新聞、映像活用)				
2	社会的養護の背景にある「家族」「家庭」問題を考える。→要保護児童発生要因を理解する				
3	社会的養護の理念と概念、基本原則について (厚生労働省資料活用)				
4	社会的養護の体系、実施のプロセス等について →諸外国との比較を含めて				
5	社会的養護の制度と法体系について →基本法、近年の改正、「措置制度」「権利擁護」「アドボカシー				
6	児童相談所の役割について →アドミッションケアの実態を理解する				
7	社会的養護の実践現場について →児童養護施設のDVDから現場を感じる				
8	施設で働く職員(保育士)、専門職について→子どもに「寄り添う」とは				
9	社会的養護の歴史背景→「戦争孤児」について理解する				
10	家庭的養護「小規模グループケア」「ファミリーホーム」について→資料、映像などから実態をつかむ				
11	児童養護施設以外の施設養護①児童自立支援施設を学ぶ→VTR活用、その役割を理解する				
12	児童養護施設以外の施設養護②自立援助ホームを学ぶ→VTR活用、リビング・アフターケア理解				
13	家庭養護「里親」について →制度を整理するとともに、ニュース映像当事者の声から理解を深める				
14	社会的養護「施設」「里親」総復習→定期試験				
15	社会的養護Ⅰ 総まとめ 15回講義を整理して、社会的養護の今後の展望を考察する				
テキスト	「社会的養護Ⅰ 新・基本保育シリーズ⑥」公益財団法人児童育成協会/監修 中央法規 価格2200円				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	定期試験(60%)、毎回提出のリアクションペーパー、授業態度(40%)で総合評価				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
社会的養護Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	北川 裕子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 社会的養護における保育士や施設の役割について知る。 家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。 到達目標 ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。					
授 業 の 概 要					
施設や保育士の役割や援助、子どもの権利擁護、保育士の倫理など、基礎的な内容について、事例を用いながら具体的に学ぶ。社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、児童自立支援計画を作成、施設でのケアの内容や意図を学ぶ。社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	養護の基本原理等の復習、子どもの権利擁護				
2	保育士の資質と倫理・責務、チームワーク				
3	施設養護の生活特性および実際 ① 入所、日常生活援助				
4	施設養護の生活特性および実際 ② 集団生活、家族調整				
5	施設養護の生活特性および実際 ③ 自立支援				
6	施設養護の生活特性および実際 ④ 退所、アフターケア				
7	施設養護の生活特性および実際 ⑤ 記録の意味、個別支援計画の作成、自己評価				
8	保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ① 心理的支援				
9	保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ② 被虐待児への支援、親への支援				
10	保育士の専門性・ソーシャルワークにかかわる知識・技術とその応用 ③ 障がい児への支援、親への支援				
11	日常生活に関する事例分析				
12	治療的支援に関する事例分析				
13	里親等の家庭養護の特性及び実際、里親に関わる事例分析				
14	今後の社会的養護の方向性(施設の小規模化、地域との関わり等)				
15	社会的養護の課題と展望、試験				
テキスト	なし				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)、参考資料は授業時に紹介				
学生に対する 評 価	授業貢献度(15%)、提出物(40%)、試験(45%)等による総合評価。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
乳児保育Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	中山 恵
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 乳児の成長・発達を理解し、援助の実際を知る。 集団生活に移行できるよう環境の工夫を探る。					
到達目標 ・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を理解する。 ・3歳未満児の援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・3歳未満児の生活の流れや遊び、保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。					
授 業 の 概 要					
・乳児の成長・発達を理解する ・観察力と必要な援助を考えグループワークを通して体験する ・乳児の遊びについて体験したことをプレゼンテーションする					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	乳児保育の基本				
2	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)				
3	子どもの保育環境(0歳児クラス)				
4	子どもの援助の実際(0歳児クラス)				
5	子どもの生活の流れ(1歳児クラス)				
6	子どもの保育環境(1歳児クラス)				
7	子どもの援助の実際(1歳児クラス)				
8	子どもの生活の流れ(2歳児クラス)				
9	子どもの保育環境(2歳児クラス)				
10	子どもの援助の実際(2歳児クラス)				
11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮				
12	集団での生活における配慮				
13	環境や変化や移行に対する配慮				
14	長期的な指導計画と短期的な指導計画及び個別的な指導計画				
15	集団の指導計画及び個別の記録 確認テスト				
テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑮ 2019年3月1日発行 中央法規				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼 保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	授業態度(10%)、レポート課題(10%)、確認テスト(80%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅰ	必修科目	4単位	実習	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目			
	(保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や乳幼児(利用者)との関わりを通して乳幼児(利用者)への理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、乳幼児(利用者)の関わり及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育(活動)の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士(職員)の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 1年次 2月上旬～3月下旬、 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 2年次 7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間) 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習;クラス担任(担当)と乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の活動に参加し、クラス担任(担当)の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案しクラス担任(担当)から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 園長(施設長)・主任保育士(職員)等により、実習施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)降園(帰宅)後の保育士(職員)の職務内容を理解する。				
⑤実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅱ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目			
	(保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ・乳幼児の観察や関わり方の視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を明確化する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する保育所の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・責任実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○責任実習;実習生が責任実習指導計画案を立案しクラス担任から指導を受け、登園から降園までの1日の活動を担当し実施する。 園長・主任保育士等により、保育所の運営方針や保育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児降園後の保育士の職務内容を理解する。				
⑤保育実習生に対する指導の方法 指導教員が実習園へ巡回指導を行い、実習園担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習園からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅲ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目			
	(保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・部分実習を実施する。 ○観察実習;施設通所児・者及び入所児・者の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案し担当から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 施設長・主任職員等により、施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。 施設通所児・者及び入所児・者帰宅後の職員の職務内容を理解する。				
⑤保育実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、実習施設担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育実習指導Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	石河 信雅
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 保育実習の意義や目的を総合的に考え理解する。 到達目標 ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授 業 の 概 要					
保育実習Ⅱ及び教育実習について具体的な取り組み方について提示する。また実習経験で学んだ事項について言語化し他の学生と共有し、省察に役立てる。					
回数	授 業 内 容 等				
1	イントロダクション・保育実習Ⅰを振り返る				
2	保育実習Ⅰの実習記録の振り返りや報告書の作成				
3	保育所保育の理解を深める(児童福祉施設としての保育所の役割)				
4	保育所保育の理解を深める(子どもの保育と保護者支援)				
5	責任実習の実際(責任実習指導案を立案する際の留意点の確認)				
6	責任実習の実際(子どもの生活と責任実習を行う際のポイント)				
7	教育実習主活動の指導計画案作成				
8	エピソード記録について				
9	保育の計画と実践(模擬保育)乳幼児の子どもの姿				
10	保育の計画と実践(模擬保育)ねらいと内容				
11	保育実習Ⅱねらいの明確化				
12	保育実習Ⅱを終えての自己総括と報告書作成				
13	保育実習Ⅱについての省察的考察				
14	省察的考察の発表と共有				
15	省察的考察と学年末までの学習の課題の明確化				
テキスト	『成長し続ける教育・保育実習』 教育情報出版				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物50(%)、授業内課題30(%)、授業内発表20(%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育実習指導Ⅲ	選択科目	演習	1単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 施設保育士・職員として求められる資質・知識・技術などについて学ぶ。 到達目標 ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授 業 の 概 要					
保育実習Ⅰの経験を踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習の意義と目的を理解する。 また、施設における利用児・者の生活について実践を通して学び、施設保育士としての専門性について理解を深める。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 施設実習について				
2	施設の種別と理解				
3	実習Ⅰの振り返り、自己課題の設定				
4	施設における利用児の生活と支援				
5	施設における保護者支援				
6	施設における利用者の生活と支援				
7	施設における家族支援				
8	事例から考える①エピソード記録から				
9	事例から考える②エピソード記録から				
10	DVD視聴「児童養護施設の日」				
11	実習の記録の方法①時系列記録				
12	実習の記録の方法②エピソード記録				
13	実習事前指導				
14	実習事後指導①実習生同士の振り返り				
15	実習事後指導②自己課題の明確化				
テキスト	特になし				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	レポート:50% 授業中の提出物:50%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
情報機器の演習	必修科目	演習	2単位	単独	生山 浩
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	情報機器の操作				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
保育現場での情報機器の活用を想定し、学級事務に関わる手紙や保育に関わる教材等をOfficeソフトを使って作成できるよう技能を身につけます。					
授 業 の 概 要					
Officeソフト(Word、Excel、PowerPoint)の操作方法を学び、手紙や教材等を作成します。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	ガイダンス(科目内容や評価方法について解説)、基本操作の確認、環境の準備(フォルダ作成)				
2	PowerPointによるプレゼンデータの作成、フリー素材サイトの利用(著作権、シークレットモード)				
3	PowerPointによるイラストの作成(図形重ね合わせ:配置、配色、合成)				
4	PowerPointによる教材制作①オブジェクトのクリックとアニメーションのタイミング設定				
5	PowerPointによる教材制作②音声の録音とトリミング、再生のタイミング設定				
6	PowerPointによる教材制作③個人タイトル「xxどれれ?」の作成:評価対象として提出				
7	Excelによる名簿の作成:名簿入力、読み仮名Phonetic()関数、オートフィルと計算式、列幅調整、罫線				
8	Excelによる住所録と出席簿の作成:郵便番号辞書の利用、関数による曜日の表示				
9	Excelによる出席簿の作成:出席の集計、表示枠の固定、その他データ操作				
10	Excelによる身体測定表の作成:単位の設定、並び替え、グラフ化				
11	Wordによるフォーマル文書(入園式の案内書)の作成:日付、宛先、差出人、タイトル、あいさつ文挿入				
12	Wordによるフォーマル文書(入園式の案内書)の作成:記書き、簡易地図の作成、座席表の作成				
13	Wordによるフォーマル文書(入園式の案内書)の作成:印刷、PDF化、メール送信:評価物として提出				
14	Wordによるクラスだよりの作成:表組によるレイアウト、フリー素材や写真の挿入など				
15	Officeソフトの理解度確認テスト				
テキスト	なし				
参 考 書 参考資料等	授業中に適宜配布 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物の評価(50%)、理解度確認テスト(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
英語コミュニケーション	必修科目	演習	2 単位	単独	ジム・ハッサウェイ
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程) 教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目				
	(保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	英語コミュニケーション				
授業のテーマ及び到達目標					
授業のテーマ Our goal is to improve your English communication skills and to improve your understanding of different cultures around the world. (英語のコミュニケーションスキルと世界中の様々な文化に対する理解の向上を目的とする。)					
到達目標 We will use our textbook to practice English communication and learn about different cultures. (教科書を用いて、英語コミュニケーションの実践と異文化について学ぶ。)					
授業の概要					
We will also use original materials such as picture books, tv shows, TED Talks, songs, dances, and games (講義において適宜、独自の素材「絵本・テレビ番組・TED Talks・歌・ダンス・ゲーム」を用いる。)					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	Orientation, and begin chapter "Hi." (オリエンテーションとチャプター 1"こんにちは。")				
2	Chapter 2, How Long (チャプター2"どのくらい")				
3	Chapter 3, Looking around (チャプター3"周りを見渡す")				
4	Chapter 4 The Classroom, first textbook check, Summer homework assignment (チャプター4"教室で教科書の確認、夏の宿題")				
5	Chapter 5 Good-bye and Directions (チャプター5"道順とさようなら")				
6	Chapter 6, What is a name? (チャプター6"あなたの名前は?")				
7	Chapter 7 Review (チャプター7"復習")				
8	Exam and Blues Clues (試験についてとTV番組"ブルース・クルーズ")				
9	Chapter 8 Children' s Books (チャプター8"子どもの本")				
10	Chapter 9 Mother Goose (チャプター9"マザーグース")				
11	Chapter 10 A Field Trip (チャプター10"校外学習")				
12	Chapter 11 Is He Sick? (チャプター11"彼は病気ですか?")				
13	Chapter 12 Stinky (チャプター12"忌々しい")				
14	Chapter 13 Games (チャプター13"ゲーム")				
15	Chapter 14 I Wanna go! (旅行、サファリ) Review for the Exam(試験の復習)				
テキスト	English and Culture, by Jim Hathaway, 2016, Sixth Edition 2023 (保育者と介護者になるための英語と文化理解の自作テキスト)				
参 考 書 参考資料等	TED Talk Sir Ken Robinson, "Do Schools Kill Creativity?" (TED Talk ケン・ロビンソン 「学校は創造性を失うのか?」)				
学生に対する 評 価	Class Participation 30%, Work in Textbook 30%, Exams 40% (授業態度30%、教科書への取り組み30%、試験40%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
体育	必修科目	講義	1単位	単独	黒羽 昭
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目				
	(保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	体育				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ (1)人の体を理解し、心身の健全な育成と健康の維持増進の重要性を理解する (2)幼児期の発育発達を理解し、体育あそびの実践に向けての基礎知識を養う					
到達目標 (1)体の仕組みや機能を理解することで健康づくりの意識を高めることができる (2)幼児の発達段階を踏まえた体育あそび実施時の安全管理を理解することができる					
授 業 の 概 要					
自分自身の健康な心と体が保育者としてどれだけ重要であるを理解させていく 幼児を取り巻く環境の変化を捉え、体育あそびの意義と必要性を学び、発達段階を踏まえた体育あそびをする時の安全管理を理解していく					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	保育者として健康づくりの大切さを理解する				
2	近年の子どものからだの異変やその対策				
3	子どもの生活と運動				
4	子どもの発達と運動				
5	幼児体育とは 体育あそびと運動あそび				
6	運動発現メカニズム 幼児体育指導上の留意事項				
7	運動と安全管理				
8	体育あそびの実践に向けて 筆記試験				
テキスト	幼児体育初級第6版(日本幼児体育学会編著、大学教育出版)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	授業態度(20%)、筆記試験(80%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
体育	必修科目	実技	1単位	単独	黒羽 昭
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	体育				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ (1)運動技能のスキルアップを図り、運動の楽しさを身に付ける (2)幼児の発達段階を踏まえた体育の指導方法を習得する					
到達目標 (1)運動技能を向上させることで運動嫌いな保育者を無くし、運動好きな保育者を育てる (2)幼児体育の指導方法を理解することで、子どもたちに適切な体育あそびの指導ができる力を身に付ける					
授 業 の 概 要					
実技運動を通して正しい技術や指導方法を習得させ、体育あそびを実行する力を身につけていく 運動大好きな保育者を育てる為に、楽しさの中にけじめをもって積極的に参加できる授業を行っていく					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	基本運動の理解 (アイスブレイク・基本運動スキル)		ゲーム(レクリエーションダンス)		
2	空間認知を養ういろいろな運動(2組・3組・4組で)		ゲーム(いろいろな競争ゲーム)		
3	マット運動(マットを使った模倣運動・前回り・前転)		ゲーム(マットを使った移動ゲーム①)		
4	マット運動(後ろ回り・開脚前転と後転・側転)		ゲーム(マットを使った移動ゲーム②)		
5	ボール運動(転がし・投げる・捕る)		ゲーム(ドッジボール)		
6	ボール運動(ドリブル・パス・シュート)		ゲーム(バスケットボール)		
7	ボール運動(オーバーハンドパス・アンダーパス)		ゲーム(バレーボール)		
8	跳び箱運動(助走・山登り・飛び降り・ポーズ・横跳び)		ゲーム(ドッジボール)		
9	跳び箱運動(開脚飛び・台上前転)		ゲーム(バスケットボール)		
10	鉄棒運動(握り方・ぶら下がり・中抜き回り・前回り降り)		ゲーム(バレーボール)		
11	鉄棒運動(逆上がり・後ろ回り)		ゲーム(ドッジボール)		
12	短縄運動(導入・前跳び・後ろ跳び) 長縄運動(回旋とび)		ゲーム(バスケットボール)		
13	短縄運動(綾跳び・二重跳び) 長縄運動(二本縄回旋とび)		ゲーム(バレーボール)		
14	綱引き・バトミントン・ニュースポーツヘチャレンジ(ビーチボール)				
15	競争ゲーム・バトミントン・ニュースポーツヘチャレンジ(ラダーゲッター)				
テキスト	幼児体育初級第6版(日本幼児体育学会編著、大学教育出版)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼 保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省) 日本スポーツ協会(JSPO)アクティブ・チャイルド・プログラムCuildebook スポーツ・レクリエーション指導者養成講習テキスト				
学生に対する 評 価	授業態度(30%)、実技運動への積極度(40%)、 実技種目のスキル評価(30%) 跳び箱・鉄棒・マット・ボール・縄とび・ゲームへの積極度				

令和7年度

シラバス集

第3学年



道灌山学園保育福祉専門学校

幼稚園教員・保育士養成科

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里4-7-15

電話 03-3828-8478

SYLLA BUS シラバス（授業計画）について

○シラバスとは

今年度開講する授業科目の名称、単位数、開講時期、学年、授業担当者名、授業の到達目標・テーマ、授業の概要、授業計画、使用するテキスト・参考資料、授業の形態、成績評価の方法等について、担当教員が記した授業の計画書です。

よく読んで、円滑に授業が受講できるよう心がけるようにしましょう。

※学生のしおりく便覧＞も良く読み、履修方法、課程修了認定、単位取得、出席要件などについての理解を深めておきましょう。

※シラバス集についての質問等は、道灌山学園保育福祉専門学校教務部へお願いします。

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
表現領域指導法Ⅱ （絵画・造形） ※略画・折紙を含む	必修科目	演習	2単位	単独	新川 美湖
施行規則に定める 科目区分	（教員養成課程）領域及び保育内容の指導法に関する科目				
	（保育士養成課程）保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 （教員養成課程）	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 幼児造形教育の基礎的な知識、技能を演習によって習得し、子どもたちに発想力・構想力・想像力を育ませ、自分 なりの造形表現や鑑賞活動へ導く実践指導力を身につける。 到達目標 幼児造形教育における「表現」領域の内容と目標、全体構造を理解できる。 造形表現活動を通して、各発達段階ごとに幼児が身に付けていく資質・能力を理解できる。 造形表現活動における評価の考え方を理解できる。 領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解することができる。 各領域の特性や幼児の体験と造形表現の関連を理解し、保育の構想に活用することができる。 造形表現の指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成・改善することができる。 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けることができる。 各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想の向上に取り組 むことができる。					
授 業 の 概 要					
保育における造形活動の中で扱う、様々な素材やその表現方法について、基礎的な実践力を習得する。とくに、 表現することの良さや楽しさを実感しながら活動することで、子どもの表現活動の過程に共感し、表現力を育むこ とができるような保育者の感性の育成も目指す。					
授 業 計 画					
	授 業 内 容 等				
1	「表現」領域の考え方と幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い				
2	春の行事と造形表現活動1【平面】				
3	春の行事と造形表現活動2【立体】				
4	春の行事と造形表現活動3【共同制作】				
5	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い1【平面】：描画材				
6	初夏の行事と造形表現活動1【平面】				
7	初夏の行事と造形表現活動2【立体】				
8	初夏の行事と造形表現活動3【共同制作】				
9	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い2【平面】：絵の具				
10	夏の行事と造形表現活動1【平面】				
11	夏の行事と造形表現活動2【立体】				
12	夏の行事と造形表現活動3【共同制作】				
13	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い2【立体】：紙工作				
14	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い3【工作】：リサイクル工作				
15	前期のまとめと「折り紙アルバム」の提出				
16	伝統文化教育と幼児の造形1				
17	秋の行事と造形表現活動1【平面】				
18	秋の行事と造形表現活動2【立体】				
19	秋の行事と造形表現活動3【共同制作】				
20	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い4【工作】：自然物				
21	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い5【鑑賞】				
22	冬の行事と造形表現活動1【平面】				
23	冬の行事と造形表現活動2【立体】				
24	冬の行事と造形表現活動3【共同制作】				
25	幼児の造形表現活動：材料や場、道具との出会い6【立体】：粘土				
26	伝統文化行事と幼児の造形2				
27	伝統文化行事と幼児の造形3				
28	協働学習を含むICTの活用と制作				
29	共同学習を含むICTの制作と鑑賞				
30	表現領域指導法（絵画・造形）のレポートの提出と講評				
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保 連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	学習への意欲や態度(40%)、各授業のレポート課題と学習記録(60%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育社会学(幼) 教育と福祉(保)	必修科目	講義	2単位	単独	宮島 直丈
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 我が国及び諸外国の教育事象を、教育社会学の知見で読み解き理解することを通して、近代以降の我が国教育システムの課題と問題点、教育事象の社会的構成構造を明らかにする。					
到達目標 ・学校(園)を巡る近年の様々な状況の変化を理解している。 ・子供の生活の変化を踏まえた指導上の課題を理解している。 ・近年の教育政策の動向を理解している。 ・諸外国の教育事情や教育改革の動向を理解している。 ・地域と連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 ・地域との連携を基とする開かれた学校(園)づくりが進められてきた経緯を理解している。 ・学校(園)の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校(園)安全の必要性について理解している。 ・生活安全、交通安全、災害安全の各領域や我が国の学校(園)をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理および安全教育の両面から具体的な取組を理解している。					
授 業 の 概 要					
「社会学的想像力」(C.W.ミルズ)を用いて、教育の世界を読み解きながら、教員として必要な相対的、総合的思考を涵養する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	講義ガイダンス「教育社会学」概説 講義根拠科学としての「教育社会学」概説				
2	教育とgender ヒトから人へ 文化と社会化 「嫡出の推定」 なぜ「女子大」あるのか？				
3	少子化社会の家族と教育 家族の形成 近親婚の禁忌 「民法」に見る家族				
4	地域社会と教育事象 我が国地域社会の変化と地域の教育力 地域社会の組織としての「学校」				
5	「教育病理」の諸相 「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」				
6	「児童虐待」の教育社会学 ①児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
7	「児童虐待」の教育社会学 ②児童虐待の定義、社会的背景、歴史、現状と課題について学ぶ。				
8	「児童虐待」の教育社会学 ③まとめ 「児童虐待」は本当に増加しているのか？				
9	「いじめ」の教育社会学① 「いじめ」の現場 「いじめ」の構造				
10	「いじめ」の教育社会学② 「いじめ」の社会的背景 「いじめ」への取り組み				
11	「入試・選抜」の教育社会学① 「学歴社会」は果たして本当に存在するのか？ 「学歴」とは何か				
12	「入試・選抜」の教育社会学② 「努力の階層性・不平等問題」学歴とメリトクラシー				
13	国際社会の中の我が国教員 「国際教員指導環境調査」(TALIS)				
14	我が国の教育政策 「教育改革」はなぜ失敗するのか？ 国家、政策と教育事象				
15	授業まとめー「教育社会学」を学んでー 定期試験				
テキスト	テキストは使用しない。「PowerPoint集成」 板書等中心。				
参 考 書 参考資料等	随時印刷物等の資料を配布する。 オフィスアワー(13:00～17:00) 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	定期試験(70%)、出欠席状況(30%)にて評価する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子ども家庭支援の心理学	必修科目	講義	2単位	単独	合澤 典子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 人の生涯発達について理解した上で、家庭のもつ意味と現状、そしてさまざまな問題を抱える子どもや過程の理解とその支援につながる力を身につける。					
到達目標 ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
生涯発達や子どもを囲む家族や家庭の意義と機能を概説した後、子育て家庭の現状とその課題や、子どもの心身の健康に関する支援を考え、理解を深めていく。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	生涯発達(1)乳幼児期から学童期前期				
2	生涯発達(2)学童期後期から青年期				
3	生涯発達(3)成人期・老年期				
4	家族・家庭の理解(1)家族・家庭の意義				
5	家族・家庭の理解(2)親子関係・家庭関係の理解				
6	家族・家庭の理解(3)子育ての経験				
7	家族・家庭の理解(4)親としての育ち				
8	子育て家庭に関する現状と課題(1)子育てを取り巻く社会的状況				
9	子育て家庭に関する現状と課題(2)ライフコースと仕事・子育て				
10	子育て家庭に関する現状と課題(3)多様な家庭				
11	子育て家庭に関する現状と課題(4)発達障害				
12	子育て家庭に関する現状と課題(5)児童虐待				
13	子どもの精神保健(1)子どもの生活・生育環境とその影響				
14	子どもの精神保健(2)心の健康				
15	まとめ 試験				
テキスト	指定しない、ただし毎回資料を配付する				
参考資料	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示) 相良順子・小泉左江子編(2020)「子ども家庭支援の心理学」ナカニシヤ出版				
学生に対する 評 価	平常点(20%)、リアクションペーパー・課題(30%)、試験(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
特別支援教育概論(幼) 障害児保育(保)	必修科目	演習	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目 (保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 「共生社会における特別支援教育の在り方」及び「個々の幼児の障害特性に基づく保育における支援」の方法について理解を深める。 到達目標 ・インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを理解している。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的 特性及び学習の過程を理解している。 ・視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児、児童及び生徒の学習上 又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。 ・発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法 について例示することができる。 ・「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を理解している。 ・特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する 意義と方法を理解している。 ・特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を理解して いる。 ・母国語や貧困の問題等により障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は 生活上の困難や組織的な対応の必要性を理解している。 ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ・個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解 する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解する。 ・障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
特別な支援を要する子ども(幼児)の理解と支援方法を中心に、その子どもを取り巻く生活・教育環境、特別支 援教育の理念等を含めて障害児保育の基礎的知識を学習する。特に、保護者・関係機関との連携、事例に基 づく個別の指導計画の作成などは、グループによる検討・発表、体験的な学習など授業形態の授業を通して、 保育現場で活用できる実践的・専門的指導・支援力を身に付ける。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	障害児保育の概要について(障害者を取り巻く環境【生活、福祉、法制度】等)				
2	障害児・者の教育に関する歴史的変遷 (学制発布前から特殊教育そして特別支援教育へ)				
3	インクルーシブ教育と合理的配慮 (共生社会、多様な学び場の整備、障害者差別解消法等)				
4	障害児の早期教育と療育及び関係機関との連携(早期発見及び早期教育・療育)				
5	障害児のための学校教育(学校教育制度と卒業後の障害児将来像について)				
6	視覚障害児の理解と保育について(視覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
7	聴覚障害児の理解と保育について(聴覚障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
8	肢体不自由児の理解と保育について (肢体不自由の特徴及び支援・配慮の方法について)				
9	知的障害児の理解と保育について①(知的障害の特徴及び支援・配慮の方法について)				
10	知的障害児の理解と保育について②(知的障害児の保育について:グループ討議)				
11	病弱・身体虚弱児の理解と保育について(病弱・身体虚弱の特徴及び支援方法について)				
12	様々な障害を体験しよう(アイマスク(視覚障害)、車いす(肢体不自由)等)				
13	情緒障害児・言語障害児の理解と保育について(支援・配慮の方法について)				
14	重複障害児・医療的ケア児の理解と保育について(具体的な支援と主治医との連携について)				
15	自閉症児の理解と保育について(自閉症スペクトラムの特徴及び支援・配慮の方法について)				
16	LD(学習障害)児の理解と保育について(LD児の特徴及び支援・配慮の方法について)				
17	ADHD(注意欠陥多動性)児の理解と保育について(ADHD児の理解と保育について)				
18	発達障害の子どもへの具体的な支援について(アプローチの方法を考えてグループ討議)				
19	多様な支援を必要とする乳幼児の理解と保育について(日本語を母語としない子ども、被虐待児等の対応、貧困家庭児等)				
20	保護者や家族に対する理解と支援①(保護者の兄弟姉妹の障害受容に焦点を当てて)				
21	保護者や家族に対する理解と支援②(就学に向けての事例をもとにグループ協議)				
22	個別の指導計画と個別的教育支援計画の意義と作成手順の理解について				
23	事例課題に基づく個別の指導計画と個別的教育支援計画の作成と指導・支援方法の検討				
24	個別の指導計画と個別的教育支援計画の活用方法(評価と記録方法を含む)				
25	障害のある乳幼児の発達と環境(発達を促すための生活及びあそび環境の工夫)				
26	障害児の就学相談について(小学校との接続)				
27	地域の専門機関・関係機関との連携				
28	子ども同士の関わり合い(統合保育・分離保育・並行通園等の様々な形態と育ちの過程)				
29	障害児保育のあり方について(職員間の協働と組織としての保育環境整備について)				
30	障害児保育の現状と課題(共生社会の実現を支える幼稚園教諭・保育士の心構え)				
テキスト	特別支援教育概論・障害児保育(五訂版、森藤 才著)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教 育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	定期試験(50%)、授業参加点(30%)、レポート提出(20%)の割合で総合的に判断する。				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子育て支援	必修科目	2単位	単独	松田 雄年
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育の基礎的理解に関する科目			
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	指導法及び教育相談等に関する科目			
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
授業のテーマ 子育ての環境を見据え、支援を必要とする保護者に対して、保育士としての適切な支援とはどのようなことなのか、その方法と技術、知識を含めた専門性を獲得する。子どもの立場と保護者の立場を想定し、講義と演習を交えながら、“援助”と“支援”の違いを理解し、支援手段や方法の演習を通して物事を多角的に捉え、社会的側面に立った状況把握の分析から、子育て支援の具体的な内容を深める。				
到達目標 ・保育者の行う保育の専門性を背景にした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 ・保育者の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解し、実践技術に活かす。				
授 業 の 概 要				
子どもの健全な成長が促進されるべき家庭が、多様化する社会の中で地域や取り巻く環境の大きな変化により、揺り動かされ変わりつつある。しかし家庭を支える地域社会の役割は大きく、その要となる保育機関への期待は高く、子どもにとっても家族にとっても掛け替えのない存在である。事例研究やグループワークとしての演習を通して、気づきや気配りの感性を磨き、子育て支援の学びを深めていく。				
授 業 計 画				
回数	授 業 内 容 等			
1	オリエンテーション・授業の進め方・授業内容・評価等		〔 目指す保育士像 〕	
2	保育士が行う“子育て支援”とは・・・		〔 保育士の資質/素養 〕	
3	保育士の業務の広がりと専門性、子どもと保護者への支援		〔 気づきと気配り① 〕	
4	保育士が行う子ども・保護者への潜在的・表面的状況把握		〔 気づきと気配り② 〕	
5	保育士の自己覚知、バイスティックの7原則		〔 自己覚知/他者理解 〕	
6	支援計画とその展開(ケースワークのプロセス)		〔 記録の取り方① 〕	
7	支援記録の意義と活用(自己研鑽と研修等)		〔 記録の取り方② 〕	
8	社会資源の活用(社会資源とは・・・)		〔 多様な社会資源 〕	
9	主な社会資源としての機関の機能と連携体制		〔 関係機関との連携 〕	
10	特別な配慮を要する家族への支援Ⅰ(家族関係)		〔 ワーク ① 〕	
11	特別な配慮を要する家族への支援Ⅱ(障害)		〔 ワーク ② 〕	
12	特別な配慮を要する家族への支援Ⅲ(虐待)		〔 ワーク ③ 〕	
13	多様な支援ニーズへの関わりと専門性		〔 専門家(プロ)とは・・・ 〕	
14	現代における子育て支援の方策手段(テスト)		〔 更なる探求心の向上 〕	
15	まとめ(子育て支援の新たな課題)		〔 日本一の保育士像 〕	
テキスト	新基本保育シリーズ19「子育て支援」(西村重稀・青井夕貴編著)〔中央法規〕			
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する 評 価	定期テスト(50%)・レポート(30%)・授業態度(20%)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
教育実践演習(幼) 保育実践演習(保)	必修科目	演習	2単位	単独	森藤 才
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育実践に関する科目 (保育士養成課程)総合演習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	教職実践演習				
履修 時期	Ⅱ部生 3年次 前・後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 ・Ⅱ部幼稚園教員・保育士養成科Cクラス					
教員の連携・協力体制 ・教務担当と各グループの担当教員の協力体制で実施。					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
本授業のテーマ 保育者としての使命感と自覚を持ち、「幼児期に育てたい資質・能力」について理解し、そのために一人ひとりの子どもの育ちを保障するための知識・技能、実践力を有する専門職を目指す。 到達目標 ・教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。 ・高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。 ・子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動することができる。 ・保育者としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。 ・組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。 ・保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。 ・子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。 ・子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 ・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。 ・保育内容5領域の内容を理解しているなど、幼児教育の基本的事項を身に付けている。 ・言葉かけ、表情など保育を行う上での基本的な表現力を身に付けている。 ・子どもの発達状況に応じて、指導計画や教材活用を工夫することができる。 ・指定保育士養成施設における教育課程の全体を通して、保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。 ・保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得する。 ・上記を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせる。					
授 業 の 概 要					
これまでの保育者養成課程における学修を振り返り、グループ討議、ロールプレイング、模擬保育等の実践的な学習を自主的、主体的に行い、自らの課題を認識し、子どもの育ちを支える保育者としての職務に携わることの自覚を高めていく。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	教職実践演習とは(講義と進め方・教科の目的と意義)				
2	「保育者の仕事」「専門職としての保育者」とは(グループディスカッション)				
3	「保育者への期待」「保育者の責任」とは(グループディスカッション)				
4	私たちが考える「保育者」とは(まとめ・発表)				
5	子ども・保護者・地域にとって魅力のある保育施設とは				
6	実習指導案の分析(幼児期の終わりまでに育てたい姿をもとに)				
7	実習体験の振り返りと今後の課題				
8	保育士として必要な専門性とは(発表形式)				
9	グループディスカッション(実習経験からの遊びの事例)				
10	『遊びのレシピ』作成①(手遊び等)				
11	模擬保育①(手遊び等)				
12	『遊びのレシピ』作成②(作って遊ぶ)				
13	模擬保育②(作って遊ぶ)				
14	保育士・幼稚園教諭を志望する動機の分析(職責・役割を考える)				
15	『遊びのレシピ』作成③(伝える遊び)				
16	模擬保育③(伝える遊び)				
17	ロールプレイング①(子ども同士のかかわり方について考える)				
18	実習体験からの成果と課題 ロールプレイング②(教職員同士のかかわりについて考える)				
19	『遊びのレシピ』作成④(運動遊び)				
20	模擬保育④(縄跳びを使った遊び)				
21	保育者の研修の重要性について考える(実習経験をもとに話し合う)				
22	『遊びのレシピ』作成⑤(季節を意識した取り組み)				
23	模擬保育⑤(行事に向けての取り組み)				
24	保育行事に関する計画案の企画・作成				
25	クラス経営案を考える(担任の業務を含む)				
26	保護者との連携を考える(グループディスカッション)				
27	個人面談や家庭訪問を想定してのロールプレイング				
28	『遊びのレシピ』の製本				
29	グループディスカッション(これまでの学びの振り返り)				
30	これからの保育者に必要な資質能力について(まとめ)				
テキスト		適宜、授業内で資料を配布する			
参 考 書 参考資料等		幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)			
学生に対する 評 価		発表 (50%)、提出物 (40%)、授業参加態度 (10%)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子どもの健康と安全	必修科目	演習	1単位	単独	細谷 光子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 保育者として、子どもの健康を守り高めるために必要な知識と技術を習得する。					
到達目標 ・保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 ・保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 ・子どもの体調不良等に対する適切な対応について具体的に理解する。 ・関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する。 ・子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。 ・子どもの健康及び安全管理に関わる組織的取組や保健活動計画及び評価等について具体的に理解する。					
授業の概要					
保育者に求められる、保健的観点を踏まえた知識や養護技術、ケガや疾病、感染症などへの適切な対応、事故や災害等における安全管理能力など、健康と安全支援について、演習・実習を取り入れて講義する。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子どもの事故についてー子どもの事故の特徴 保育施設での事故 事故防止と安全対策				
2	災害への備えについてー災害への備え、避難訓練、災害時の対応、こころのケアなど				
3	子どもの保健的対応(1)ー3歳未満時の特徴やその対応(飲食、乳歯と永久歯、睡眠など)				
4	子どもの保健的対応(2)ー清潔及び排泄への援助技術の習得(おむつ替え・沐浴の演習)				
5	アレルギーのある子どもへの対応ーアレルギー疾患の種類と対応、アナフィラキシーへの対応など				
6	子どもの救急処置ー心肺蘇生法、AED操作、気道異物除去、エピペンなど				
7	子どもの応急処置ー頭部打撲、出血、骨折、歯や目のけが、誤飲と誤嚥、三角巾の使い方など				
8	子どもの体調不良への対応ー発熱、下痢、咳、嘔吐、脱水、けいれん、熱中症など				
9	子どもの感染症とその予防(1)ー発生時の対応、登園停止と解除など				
10	子どもの感染症とその予防(2)ー感染源・感染経路対策、消毒、清掃などの衛生管理				
11	慢性疾患のある子どもへの対応ーてんかん、糖尿病、先天性心疾患、小児がんなど				
12	障害のある子どもへの対応ー発達障害、神経症、不安症、聴覚障害、視覚障害など				
13	健康教育についてー子ども及び保護者への健康教育、保健だよりなど				
14	保健安全管理の実施体制ー保健活動、保健計画と評価、地域や保護者との連携				
15	学習のまとめ 筆記試験				
テキスト	よくわかる！保育士エクササイズ7 『子どもの保健と安全 演習ブック』 ミネルヴァ書房				
参 考 書 参考資料等	「2019年改訂版 保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成31年4月 厚生労働省) 「2018改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(令和5年5月一部改訂 こども家庭 庁) 「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時 の対応のためのガイドライン」 (平成23年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省) な ど				
学生に対する 評 価	筆記試験(50%)、課題と実技評価(40%)、授業への取り組み姿勢(授業態度・学習意欲)(10%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための		授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育内容の理解と方法Ⅱ ※児童文化、保育技術研究、卒業研究を含む	必修科目		演習	2単位	複数	菅野 清子 阿部 恵
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目					
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目					
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)						
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標						
授業のテーマ 幅広い保育の技術を総合的に学び、更にグループで保育技術研究に取り組み、その成果を発表する。また、研究発表のまとめや資料作りなど、保管資料として完成させる。新しい保育技術の取り組みを、個人やグループワークなどで、スキルアップしていく。						
到達目標 ・保育の内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と、保育の環境構成及び具体的展開のための技術を習得する。 ・子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 ・保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。						
授業の概要						
・グループで、研究発表したものをふりかえり、その成果を、記録にまとめる。 ・保育の現場で活かせる技術を、スキルアップし、表現力を学ぶ。 ・伝承遊びの研究や、コミュニケーションを取り入れたあそび等、グループワークに取り組む。						
授 業 計 画						
回数	授 業 内 容 等					
1	保育技術研究：保育内容の基礎技能・目的やねらい等を理解し、グループで取り組む					
2	保育技術研究：研究計画 グループ分け 研究分野の特徴と特色の理解と目標					
3	保育技術研究：題材選びと脚本作り 発表までの研究計画の立案と記録の取り方					
4	保育技術研究：役割決め キャスティング 効果など					
5	保育技術研究：舞台効果 背景、大道具 小道具 音響 照明 衣装の取り入れ方等の研究					
6	保育技術研究：グループごとに研究活動① 発表までの活動計画 道具、材料等					
7	保育技術研究：グループごとに研究活動② 音響効果と設備の使い方					
8	保育技術研究：グループごとに研究活動③ 舞台と照明の関係					
9	保育技術研究：グループごとに研究活動④ 全体の通し練習					
10	保育技術研究：グループごとの最終見直しと、技術解説のまとめ					
11	保育技術研究：研究発表のふりかえり グループワーク 研究記録の作成について					
12	保育技術研究：研究記録のまとめ方① 写真 参考文献の扱い方 データ作成					
13	保育技術研究：研究記録のまとめ方② 個人やグループごとに研究紀要作成					
14	保育技術研究：研究記録の作成 グループワーク ふりかえり					
15	前期のまとめ：自身をふりかえり、後期の教育実習に向けて 今後の課題と目標設定					
16	後期の目標と課題 スキルアップと探究心について					
17	からだあそび① 子どもたちとのコミュニケーションづくり アイスブレイキング表現あそび					
18	からだあそび② 子どもたちとのコミュニケーションづくり 音楽や手作りのもの					
19	オリジナルのパネルシアターを作る(スキルアップ)①日常保育に活かす					
20	オリジナルのパネルシアターを作る(スキルアップ)②日常保育に活かす					
21	手作りの伝承遊び					
22	手作り人形①手袋・くつしたなど身近なものを利用					
23	手作り人形②コミュニケーションをとる技術法					
24	園だよりやクラスだよりの作成① 重要性和必要性 グループワーク					
25	園だよりやクラスだよりの作成② 作成のポイント 役割 グループワーク					
26	園だよりやクラスだよりの作成③ 構成と校正 レイアウト					
27	園だよりやクラスだよりを、グループごとに発表する					
28	異年齢に応じた集団遊び 全体集会などで活用できるもの					
29	パネルシアター等のスキルアップを発表する					
30	パネルシアター等のスキルアップを発表する 総合演習 まとめ 保育技術の展開					
テキスト	すきま時間あそび 阿部恵著 すずき出版					
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)					
学生に対する 評 価	授業態度(20%)グループや個人の発表(40%)課題の取り組みと提出物(40%)					

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子どもの食と栄養	必修科目	演習	2単位	単独	小鎌 みどり
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の対象の理解に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 子どもの健康と発育過程を理解させて離乳食・幼児食を食べさせられるようにする。健康と食生活の大切さを子どもに教えられるようにする。 到達目標 ・健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 ・子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ・家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・関連するガイドライン(参考資料)や近年のデータ等を踏まえ、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。					
授 業 の 概 要					
講義内容を復習しながら調理実習を行う。食育の媒体を作成し、食への理解と関心をもつ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	食生活の意義について				
2	自分の食生活について考える				
3	食品と栄養について				
4	食事摂取基準・献立作成				
5	乳児期の栄養・妊娠期の食生活について				
6	離乳食について・衛生管理				
7	離乳食初期 調理実習				
8	離乳食中期 調理実習				
9	離乳食後期・完了期調理実習				
10	離乳食まとめ 小テスト				
11	幼児期の食事について				
12	幼児期調理実習(3～5歳)				
13	幼児期調理実習(間食)				
14	幼児期お弁当・行事食献立作成				
15	幼児期調理実習(お弁当)				
16	幼児期調理実習(行事食)				
17	幼児期の食生活の問題点				
18	学童期の食生活・幼児期の食事のまとめ 小テスト				
19	食育について				
20	三色食品群媒体作り				
21	食育の歌を考える				
22	食育の歌発表				
23	食育カルタ作成				
24	食育カルタ発表・地域の関係機関との連携				
25	食育のまとめ・小テスト				
26	食育だより作成				
27	乾物を使った幼児期調理実習				
28	児童福祉施設における食事と栄養				
29	特別な配慮を要する子どもの食事と栄養				
30	子どもの食生活の現状と課題・防災食・まとめ				
テキスト	最新子どもの食と栄養(飯塚美和子編著、学建書院)				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物(40%)、授業中の態度(20%)、小テスト(40%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
子ども家庭支援論	必修科目	講義	2単位	単独	田尻 さやか
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の本質・目的に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 子育てを取り巻く社会状況を理解し、子育て家庭を支援する方法を理解する。保育現場における様々な子育て支援の実践を理解し、支援の基本的技術を身につける。					
到達目標 ・子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ・保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ・子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ・子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。					
授 業 の 概 要					
家族形態の変遷を知り、現代家族の現状理解を深め「なぜ支援が必要なのか」について社会的背景を含めた原因を探る。その上で家族支援についての方法を学ぶ。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	子育てと家庭 ー家庭・家族の動向と現状ー				
2	子育てをめぐる問題 ー社会環境の変化と家庭生活ー				
3	子育て支援の政策動向 ー子育て支援施策と援助ー				
4	保育所保育指針における子育て支援 ー保育者による子ども家庭支援、保育の特性を生かした支援ー				
5	地域における子育て支援 ー地域の子育て支援の実践ー				
6	子育て支援のあり方 ー支援の目的、対象者、支援者ー				
7	援助の実践 ー支援の目的と基本的態度ー				
8	保育所における地域家庭支援 ー保育所の役割と地域支援ー				
9	特別なニーズを持つ家庭 ー保護者の心理・対応についてー				
10	乳幼児の虐待と対応 ー虐待の理解と親への対応ー				
11	様々な家庭での子育て ー家族構成の変化ー				
12	ドメスティック・バイオレンス ーDVの理解と家庭支援ー				
13	異文化家庭への援助 ー異文化家族への対応の実践ー				
14	専門機関との連携				
15	まとめと試験				
テキスト	「新基本保育シリーズ5 子ども家庭支援論 第2版」松原康雄他 中央法規 2023				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	試験(60%)、授業への取り組み態度(10%)、提出物・コメントペーパー等提出物(30%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
社会的養護Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	江田 祐子
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 社会的養護の実態および未来像を掴みながら、演習を通じて「実践力」を高める。 到達目標 ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。					
授 業 の 概 要					
「社会的養護Ⅰ」で獲得した知識を連動させながら、「実践」を見据えてワークやディスカッション等により「援助技術」を体験・獲得していく					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	イントロダクション～社会的養護Ⅰを振り返り、本授業(演習)のガイダンスとする				
2	多様化する「家族」「家庭」問題から要保護児童発生要因を考察する→ワーク				
3	「親」になるとは→VTR活用し、自らの考えを整理し「グループディスカッション」で意見交換する				
4	児童虐待について①→ロールプレイ動画等活用し、発生の背景やダメージのしくみを考察する				
5	児童虐待について②→マルトリートメントによるダメージへのケアを具体的に考える(ワーク)				
6	要保護児童の養育は「里親」「施設」だけ?→VTR活用により既存概念を再考察してみる				
7	施設で働く職員(保育士)、専門職について→現場実践に携わる職員からの話から保育所等の保育士との違いを考察する				
8	実践現場における援助的な人間関係構築の原則と技法①→個別化・傾聴等ワーク				
9	実践現場における援助的な人間関係構築の原則と技法②→問題の明確化等チームワーク体験				
10	権利擁護について →「子どもの権利条約」理解をふまえて実践における取り組みを考察する				
11	「当事者参加」について考える→入所児童、退所児童が社会的養護の暮らしへ主体的参画するには				
12	「自立支援」について →リービングケア、アフターケアの重要性を理解する				
13	「自立支援計画書」策定ワーク①→これまでの学びを踏まえて実際に計画策定を体験する				
14	「自立支援計画書」策定ワーク②→※「定期試験」を連動する				
15	社会的養護Ⅱ 総まとめ 15回講義を整理して、子どもの育ちを支える実践者へと意識を向ける				
テキスト	なし				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	定期試験(60%)、毎回提出リアクションペーパー、授業態度(40%)で総合評価				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
乳児保育Ⅱ	必修科目	演習	1単位	単独	中山 恵
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育の内容・方法に関する科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ					
乳児の成長・発達を理解し、援助の実際を知る。 集団生活に移行できるよう環境の工夫を探る。					
到達目標					
・3歳未満児の発育・発達の過程や特性を理解する。 ・3歳未満児の援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 ・3歳未満児の生活の流れや遊び、保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 ・乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。					
授 業 の 概 要					
・乳児の成長・発達を理解する ・観察力と必要な援助を考えグループワークを通して体験する ・乳児の遊びについて体験したことをプレゼンテーションする					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	乳児保育の基本				
2	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)				
3	子どもの保育環境(0歳児クラス)				
4	子どもの援助の実際(0歳児クラス)				
5	子どもの生活の流れ(1歳児クラス)				
6	子どもの保育環境(1歳児クラス)				
7	子どもの援助の実際(1歳児クラス)				
8	子どもの生活の流れ(2歳児クラス)				
9	子どもの保育環境(2歳児クラス)				
10	子どもの援助の実際(2歳児クラス)				
11	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮				
12	集団での生活における配慮				
13	環境や変化や移行に対する配慮				
14	長期的な指導計画と短期的な指導計画及び個別的な指導計画				
15	集団の指導計画及び個別の記録 確認テスト				
テキスト	乳児保育Ⅰ・Ⅱ 新・基本保育シリーズ⑮ 2019年3月1日発行 中央法規				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示文部科学省)、保育所保育指針(2017.3告示厚生労働省)、幼 保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示内閣府・文部科学省・厚生労働省)				
学生に対する 評 価	授業態度(10%)、レポート課題(10%)、確認テスト(80%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅰ	必修科目	4単位	実習	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目			
	(保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ・観察や乳幼児(利用者)との関わりを通して乳幼児(利用者)への理解を深める。 ・既習の教科目の内容を踏まえ、乳幼児(利用者)の関わり及び保護者への支援について総合的に理解する。 ・保育(活動)の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・保育士(職員)の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 1年次 2月上旬～3月下旬、 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 2年次 7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間) 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・参加実習・部分実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○参加実習;クラス担任(担当)と乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)の活動に参加し、クラス担任(担当)の役割や配慮、環境構成などを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案しクラス担任(担当)から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 園長(施設長)・主任保育士(職員)等により、実習施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児(施設通所児・者及び入所児・者)降園(帰宅)後の保育士(職員)の職務内容を理解する。				
⑤実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅱ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代 石河 信雅
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目			
	(保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ・乳幼児の観察や関わり方の視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ・既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、乳幼児の保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ・保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を明確化する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 保育所 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する保育所の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・責任実習を必ず実施する。 ○観察実習;乳幼児の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○責任実習;実習生が責任実習指導計画案を立案しクラス担任から指導を受け、登園から降園までの1日の活動を担当し実施する。 園長・主任保育士等により、保育所の運営方針や保育活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。乳幼児降園後の保育士の職務内容を理解する。				
⑤保育実習生に対する指導の方法 指導教員が実習園へ巡回指導を行い、実習園担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習園からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	単位数	授業方法	担 当 教 員 名
保育実習Ⅲ	選択科目	2単位	実習	池田 幸代
施行規則に定める各科目 区分又は事項等	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目 (保育士養成課程)保育実習			
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標				
到達目標 ・既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解する。 ・家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を理解する。				
実 習 等 実 施 計 画				
保育実習の内容及び成績評価等				
①保育実習の時期 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅰ部 2年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬 ○幼稚園教員・保育士養成科第Ⅱ部 3年次 5月上旬～5月下旬、または、7月中旬～8月下旬、または11月上旬～11月下旬				
②保育実習の実習期間・総時間数 児童福祉施設 2週間(90時間)				
③実習施設の確保・方法 養成校が指定する施設の中から、実習生が希望する実習施設を選び内諾を得る。				
④保育実習内容 指定期間内に、観察実習・部分実習を実施する。 ○観察実習;施設通所児・者及び入所児・者の様子を観察・記録し、実態や一日の流れを学ぶ。 ○部分実習;実習生が部分実習指導計画案を立案し担当から指導を受け、活動の一部分(歌唱指導・制作指導・レクリエーション活動等)を担当し実施する。 施設長・主任職員等により、施設の運営方針や活動の特色、職員体制や地域との関わりなどを学ぶ。 施設通所児・者及び入所児・者帰宅後の職員の職務内容を理解する。				
⑤保育実習生に対する指導の方法 指導教員が実習施設へ巡回指導を行い、実習施設担当職員と実習進行状況の確認を行う。保育実習期間中、実習生からの相談・報告等を受けられるよう態勢を整える。				
⑥保育実習の成績評価(評価の基準及び方法) 実習施設からの実習評価書、担当教員の評価、実習記録簿の記録状況等を総合的に評価し、実習運営委員会において成績評価を行う。				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)			

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
保育実習指導Ⅲ	選択科目	演習	1単位	単独	池田 幸代
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)大学が独自に設定する科目				
	(保育士養成課程)保育実習				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)					
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
授業のテーマ 施設保育士・職員として求められる資質・知識・技術などについて学ぶ。 到達目標 ・保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ・実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ・保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ・保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。					
授 業 の 概 要					
保育実習Ⅰの経験を踏まえて、保育所以外の児童福祉施設での実習の意義と目的を理解する。 また、施設における利用児・者の生活について実践を通して学び、施設保育士としての専門性について理解を深める。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	オリエンテーション 施設実習について				
2	施設の種別と理解				
3	実習Ⅰの振り返り、自己課題の設定				
4	施設における利用児の生活と支援				
5	施設における保護者支援				
6	施設における利用者の生活と支援				
7	施設における家族支援				
8	事例から考える①エピソード記録から				
9	事例から考える②エピソード記録から				
10	DVD視聴「児童養護施設の日」				
11	実習の記録の方法①時系列記録				
12	実習の記録の方法②エピソード記録				
13	実習事前指導				
14	実習事後指導①実習生同士の振り返り				
15	実習事後指導②自己課題の明確化				
テキスト	特になし				
参 考 書 参考資料等	幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	レポート:50% 授業中の提出物:50%				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
情報機器の演習	必修科目	演習	2単位	単独	生山 浩
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程)教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目 (保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	情報機器の操作				
授 業 の テ ー マ 及 び 到 達 目 標					
保育現場での情報機器の活用を想定し、学級事務に関わる手紙や保育に関わる教材等をOfficeソフトを使って作成できるよう技能を身につけます。					
授 業 の 概 要					
Officeソフト(Word、Excel、PowerPoint)の操作方法を学び、手紙や教材等を作成します。					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	ガイダンス(科目内容や評価方法について解説)、基本操作の確認、環境の準備(フォルダ作成)				
2	PowerPointによるプレゼンデータの作成、フリー素材サイトの利用(著作権、シークレットモード)				
3	PowerPointによるイラストの作成(図形重ね合わせ:配置、配色、合成)				
4	PowerPointによる教材制作①オブジェクトのクリックとアニメーションのタイミング設定				
5	PowerPointによる教材制作②音声の録音とトリミング、再生のタイミング設定				
6	PowerPointによる教材制作③個人タイトル「xxどれれ?」の作成:評価対象として提出				
7	Excelによる名簿の作成:名簿入力、読み仮名Phonetic()関数、オートフィルと計算式、列幅調整、罫線				
8	Excelによる住所録と出席簿の作成:郵便番号辞書の利用、関数による曜日の表示				
9	Excelによる出席簿の作成:出席の集計、表示枠の固定、その他データ操作				
10	Excelによる身体測定表の作成:単位の設定、並び替え、グラフ化				
11	Wordによるフォーマル文書(入園式の案内書)の作成:日付、宛先、差出人、タイトル、あいさつ文挿入				
12	Wordによるフォーマル文書(入園式の案内書)の作成:記書き、簡易地図の作成、座席表の作成				
13	Wordによるフォーマル文書(入園式の案内書)の作成:印刷、PDF化、メール送信:評価物として提出				
14	Wordによるクラスだよりの作成:表組によるレイアウト、フリー素材や写真の挿入など				
15	Officeソフトの理解度確認テスト				
テキスト	なし				
参 考 書 参考資料等	授業中に適宜配布 幼稚園教育要領(2017.3告示)、保育所保育指針(2017.3告示)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(2017.3告示)				
学生に対する 評 価	提出物の評価(50%)、理解度確認テスト(50%)				

シラバス

授 業 科 目 名	教員の免許状取得のための	授業方法	単位数	担当形態	担 当 教 員 名
英語コミュニケーション	必修科目	演習	2 単位	単独	ジム・ハッサウェイ
施行規則に定める 科目区分	(教員養成課程) 教育職員免許法施行規則第六十六条の六に定める科目				
	(保育士養成課程)教養科目				
各科目に含めることが 必要な事項等 (教員養成課程)	英語コミュニケーション				
授業のテーマ及び到達目標					
授業のテーマ Our goal is to improve your English communication skills and to improve your understanding of different cultures around the world. (英語のコミュニケーションスキルと世界中の様々な文化に対する理解の向上を目的とする。)					
到達目標 We will use our textbook to practice English communication and learn about different cultures. (教科書を用いて、英語コミュニケーションの実践と異文化について学ぶ。)					
授業の概要					
We will also use original materials such as picture books, tv shows, TED Talks, songs, dances, and games (講義において適宜、独自の素材「絵本・テレビ番組・TED Talks・歌・ダンス・ゲーム」を用いる。)					
授 業 計 画					
回数	授 業 内 容 等				
1	Orientation, and begin chapter "Hi." (オリエンテーションとチャプター 1"こんにちは。")				
2	Chapter 2, How Long (チャプター2"どのくらい")				
3	Chapter 3, Looking around (チャプター3"周りを見渡す")				
4	Chapter 4 The Classroom, first textbook check, Summer homework assignment (チャプター4"教室で教科書の確認、夏の宿題")				
5	Chapter 5 Good-bye and Directions (チャプター5"道順とさようなら")				
6	Chapter 6, What is a name? (チャプター6"あなたの名前は?")				
7	Chapter 7 Review (チャプター7"復習")				
8	Exam and Blues Clues (試験についてとTV番組"ブルース・クルーズ")				
9	Chapter 8 Children' s Books (チャプター8"子どもの本")				
10	Chapter 9 Mother Goose (チャプター9"マザーグース")				
11	Chapter 10 A Field Trip (チャプター10"校外学習")				
12	Chapter 11 Is He Sick? (チャプター11"彼は病気ですか?")				
13	Chapter 12 Stinky (チャプター12"忌々しい")				
14	Chapter 13 Games (チャプター13"ゲーム")				
15	Chapter 14 I Wanna go! (旅行、サファリ) Review for the Exam(試験の復習)				
テキスト	English and Culture, by Jim Hathaway, 2016, Sixth Edition 2023 (保育者と介護者になるための英語と文化理解の自作テキスト)				
参 考 書 参考資料等	TED Talk Sir Ken Robinson, "Do Schools Kill Creativity?" (TED Talk ケン・ロビンソン 「学校は創造性を失うのか?」)				
学生に対する 評 価	Class Participation 30%, Work in Textbook 30%, Exams 40% (授業態度30%、教科書への取り組み30%、試験40%)				